

木造軸組住宅用壁補強キット

「かべつよし」

木造軸組住宅用壁補強キット(不燃用)

「モイスクアベつよし」

— 施工マニュアル —

平成19年 5月

【主な改訂記録】

3/2 壁強さ倍率の変更(建防協より低減指示)

4/4 かべつよし(真壁用)壁強さ倍率の変更(建防協より低減指示)

※(財)日本建築防災協会の住宅等防災技術評価(DPA-住技-13)取得 2007.05.14

# 1. 施工上の注意点

- 1) 「かべつよし」を使用した補強設計・施工にあたっては、設計マニュアルと本施工マニュアルを必ずご覧ください。
- イ) 「かべつよし」は、既存在来木造住宅の壁を耐震補強する製品です。施工にあたっては、必ず同梱された専用部材を使用してください。正しい施工方法をしていただかないと、所定の補強効果を発揮できません。
- ロ) 補強する部位の躯体(土台・梁・柱)の劣化状況を確認し、著しい劣化が見られる場合は交換または修繕を行ってください。また、補強する部分の梁・桁・胴差しに継手部分がある時には使用しないでください。
- ハ) 台所、脱衣室など水かかりの恐れがある部位に施工する場合には、耐震パネルが湿潤状態とならないよう防水上有効な下地や仕上げ(ビニルクロス等防水性のある仕上げ)としてください。
- 2) 「モイスかべつよし」の耐震パネルには、塗装や塗り壁、クロス張りが出来るよう表面処理をしています。冷暖房機器の付近や脱衣室など過度の高湿・過乾燥となる室内環境下では、クロス仕上げの目地等で不具合が生じることがあります。
- 3) コンセント等の穴あけは、耐力の低下を招くことがあるため最小限にしてください。耐震ボード1枚当たりに丸穴(直径200mm以下)を1箇所、又は直径100mm以下を2箇所までとします。四角穴は100mm×100mm以下2箇所までとし、四隅はR加工としてください。R=20mm以上とする(穴はパネルの縁から100mm以上離してあけ、穴あけ箇所間隔は200mm以上離してください)
- 4) 防腐上の措置として、平18建交告184号より、外壁のうち、鉄網モルタル塗その他軸組みが腐りやすい構造である部分又は柱、筋かい及び土台のうち、地面から1m以内の部分には、有効な防腐措置を講じてください。(防腐措置の解釈は建築主事等の判断となりますので、事前に各自治体に確認してください。)(ただし、「モイスかべつよし」の面材はこの限りではありません。)

## 2. 施工にあたって用意するもの

本製品の施工にあたり、以下の工具をご用意下さい。

使用工具	
<input type="checkbox"/> <b>インパクトドライバー※</b> ボードや受け金物、柱頭・脚金物を設置する際に使用	<input type="checkbox"/> ハンマー (金槌)
<input type="checkbox"/> <b>四角ビット (■3番) 長短</b> かべつよしのボードや受け金物、柱脚金物ビス留め用	<input type="checkbox"/> かんな (又はボードかんな)
モイスかべつよしのボード留め用のみ四角ビットが異なります (■2番)	<input type="checkbox"/> さしがね (矩尺)
<input type="checkbox"/> 丸のこ (防塵フード付き)	<input type="checkbox"/> 巻尺 (コンベックススケール)
	<input type="checkbox"/> 下げ振り
	<input type="checkbox"/> 水準器
	<input type="checkbox"/> 電気コードドラム

※電動ドライバードリルを使用すると、トルク不足によりパネル留めのビス頭が“なめる(つぶれる)”おそれがあります。きちんとビスを施工するため、インパクトドライバーのご使用をお願いします。

※柱頭・柱脚補強金物の施工に使用する「四角ビット」へは、ロングシャフトやフレキシブルシャフトのご利用をお勧めします。

## 3. 施工チェックシート

本製品の補強計画・施工時には、次ページの施工チェックシートにより確認してください。

補強計画・施工時には、必ず本チェックシートにより確認をしてください。

かべつよし・モイスかべつよし 施工チェックシート		チェック日： 年 月 日			
		会社名・担当者名：			
		物件名：			
		所在地：			
チェック項目		実測値		○×	基準値
1. 耐震補強計画時の確認					
1-1. 建物の概要	工法			/	在来軸組工法とする 3階建て以下
	階数	階建て			
	築年数	年			
1-2. 補強前の耐震診断総合評点（上部構造の最小値）				/	—
1-3. 耐震補強計画は実施したか？				/	実施する
1-4. 補強計画後の総合評点（上部構造の最小値）				/	目標1.0以上
1-5. 施工仕様は以下のいずれか？		仕様	個数	/	—
①①直張り大壁仕様Aa（左右とも柱105角以上） ②②直張り大壁仕様Bb（左右とも柱） ③③直張り大壁仕様Cc（柱と添え柱） ④④直張り大壁仕様Dd（柱と後施工柱） ⑤⑤入隅受材仕様Ee ⑥⑥直張り大壁開口仕様Ff（まどつよし） ⑦⑦真壁仕様Gg ⑧⑧真壁仕様Hh（柱と添え柱） ⑨⑨真壁仕様Ii（柱と後施工柱） ⑩⑩大壁仕様J（かべつよしのみ） （①～⑩：かべつよし ⑪～⑱：モイスかべつよし）					
1-6. かべつよしの使用個数		[個]		/	—
1-7. 施工部位の柱頭・柱脚の仕口補強金物の選定は、建築基準法（告示1460号）に準じて行ったか？				/	N値計算により同梱の金物では不足する場合、市販品を使用する
2. 施工前の確認					
2-1. 取扱説明書はよく読んだか？				/	—
2-2. 土台、柱、梁などの軸材の劣化、異常の確認				/	劣化状況に応じ修繕
2-3. 軸の高さ（上下横架材間の芯々高さ寸法）確認		[mm]		/	—
2-4. 天井の高さ（パネル高さ）確認		[mm]		/	軸の高さ×0.8以上
2-5. 横桟は切り欠いたり、途中で切断せず柱間に正しく施工したか？		[mm]		/	150mm以下
2-6. 梁下からパネル上端までのすきま寸法		[mm]		/	200mm以下
2-7. 柱の間隔（芯々寸法）		[mm]		/	基本スパン900mm～1000mm
3. 施工時の確認					
3-1. 柱頭・柱脚の仕口補強金物の施工確認				/	
3-2. 横桟は切り欠いたり、途中で切断せず柱間に正しく施工したか？				/	
3-3. 耐震パネル（面材）は専用ビスにて適切な間隔で留め付けたか？				/	
3-4. 柱に直張り出来ない仕様（入隅、真壁）では専用部材を使用したか？				/	
3-5. 間柱で継ぐ場合は、添え柱を施工したか？				/	

## 4. 標準施工方法

各施工仕様の施工手順は下記の通りです。詳細は次ページ以降をご覧ください。

施工方法① 直張り大壁仕様A, a	施工方法② 直張り大壁仕様B, b	施工方法③ 直張り大壁仕様C, c	施工方法④ 直張り大壁仕様D, d
①-1 施工準備、 軸組材の確認、 柱頭・柱脚の 補強金物取り付け ↓ ①-2 横棧の施工 ↓ ①-3 耐震ボードの施工	②-1 施工準備、 軸組材の確認、 柱頭・柱脚の 補強金物取り付け ↓ ②-2 横棧の施工 ↓ ②-3 耐震ボードの施工	③-1 施工準備、 軸組材の確認、 <u>添え柱の施工、</u> 柱頭・柱脚の 補強金物取り付け ↓ ③-2 横棧の施工 ↓ ③-3 耐震ボードの施工	④-1 施工準備、 軸組材の確認、 <u>後施工柱の施工、</u> 柱頭・柱脚の 補強金物取り付け ↓ ④-2 横棧の施工 ↓ ④-3 耐震ボードの施工

施工編

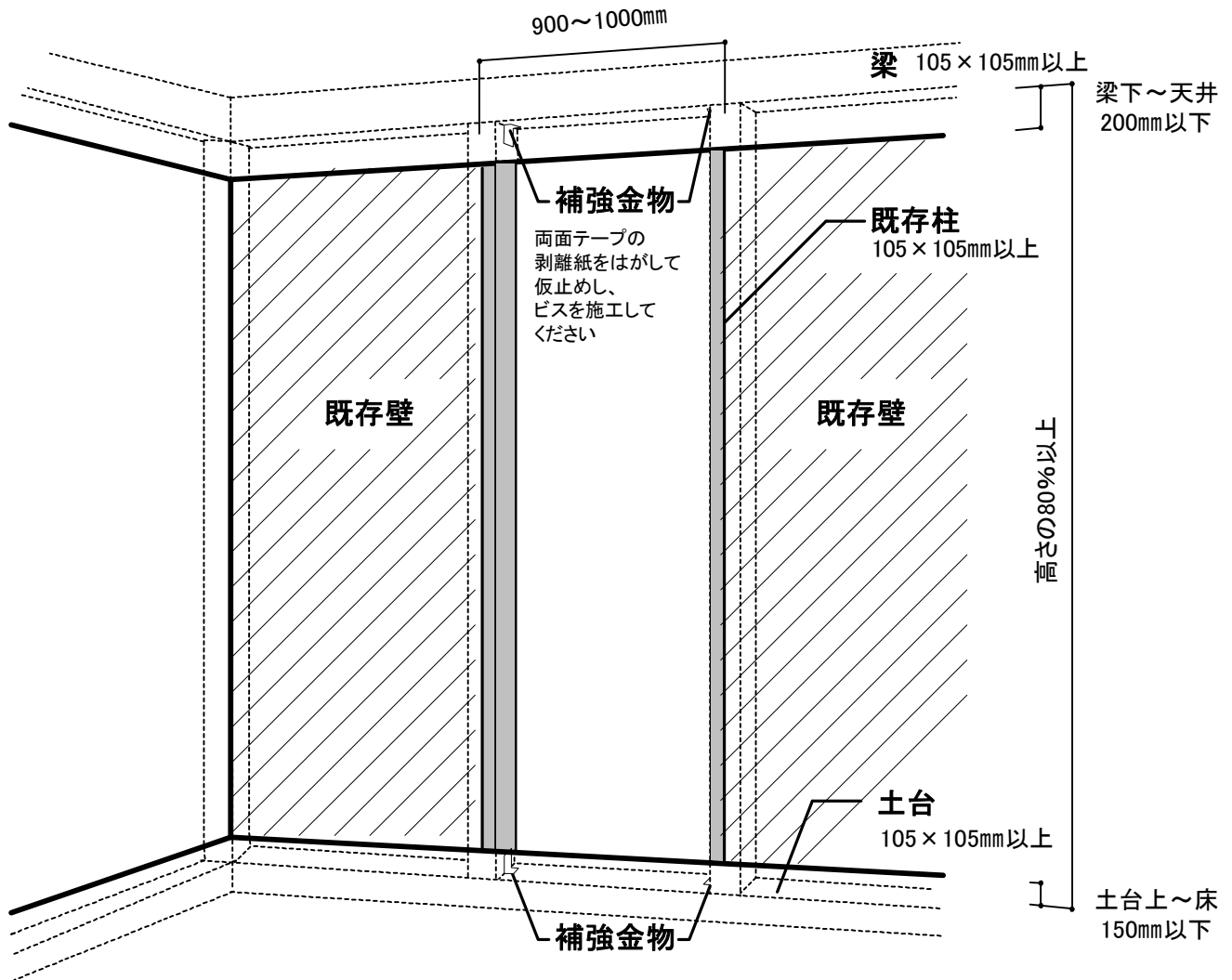
施工方法⑤ 入隅受材仕様E, e	施工方法⑥ 直張り大壁開口 仕様F, f	施工方法⑦ 真壁仕様G, g	施工方法⑧ 真壁仕様H, h
⑤-1 施工準備、 軸組材の確認、 柱頭・柱脚の 補強金物取り付け ↓ ⑤-2 横棧・ <u>縦棧の施工</u> ↓ ⑤-3 耐震ボードの施工	⑥-1 施工準備、 軸組材の確認、 柱頭・柱脚の 補強金物取り付け ↓ ⑥-2 横棧の施工 ↓ ⑥-3 耐震ボードの施工	⑦-1 施工準備、 軸組材の確認、 柱頭・柱脚の 補強金物取り付け ↓ ⑦-2 横棧・ <u>縦棧の施工</u> ↓ ⑦-3 耐震ボードの施工	⑧-1 施工準備、 軸組材の確認、 <u>添え柱の施工、</u> 柱頭・柱脚の 補強金物取り付け ↓ ⑧-2 横棧・ <u>縦棧の施工</u> ↓ ⑧-3 耐震ボードの施工

施工方法⑨ 真壁仕様I, i	施工方法⑩ 大壁仕様J
⑨-1 施工準備、 軸組材の確認、 <u>後施工柱の施工、</u> 柱頭・柱脚の 補強金物取り付け ↓ ⑨-2 横棧・ <u>縦棧の施工</u> ↓ ⑨-3 耐震ボードの施工	⑩-1 施工準備、 軸組材の確認、 柱頭・柱脚の 補強金物取り付け ↓ ⑩-2 横棧の施工 ↓ ⑩-3 耐震ボードの施工

# ①直張り大壁仕様A、a (左右とも柱105角)

所定の補強効果(壁強さ倍率)にて設計・施工する際には、これら概要図の中の設計寸法範囲を必ず守っていただく必要がありますのでご注意ください。

## ①-1) 施工準備、軸組材の確認、柱頭・柱脚の補強金物取付



施工編

### 【施工準備・軸組材の確認】

- ・施工する箇所の内壁をはがし、躯体を現す。床、天井部分は取り外さなくても良いが、柱頭部の補強金物を施工するために天井を部分的に外したり、土台・柱が腐朽、劣化し修繕・交換などを行う場合は取り外すこともあります。
- ・土台、梁、胴差及び桁の断面寸法は105×105mm以上とします。  
柱の断面寸法は105×105mm以上とします。

### 【柱頭・柱脚の補強金物取り付け】

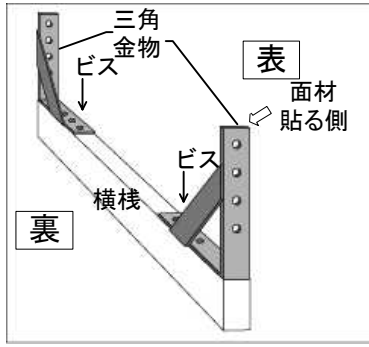
- ・柱頭と柱脚には事前の補強計画(※)に従い、当該部分の壁倍率(有効倍率)に応じた引き抜け防止措置を講じる。施工編P31(14.2kN用)を参照ください。

※建築基準法に準じたN値計算により柱頭・柱脚の補強金物を選定し、取り付ける。

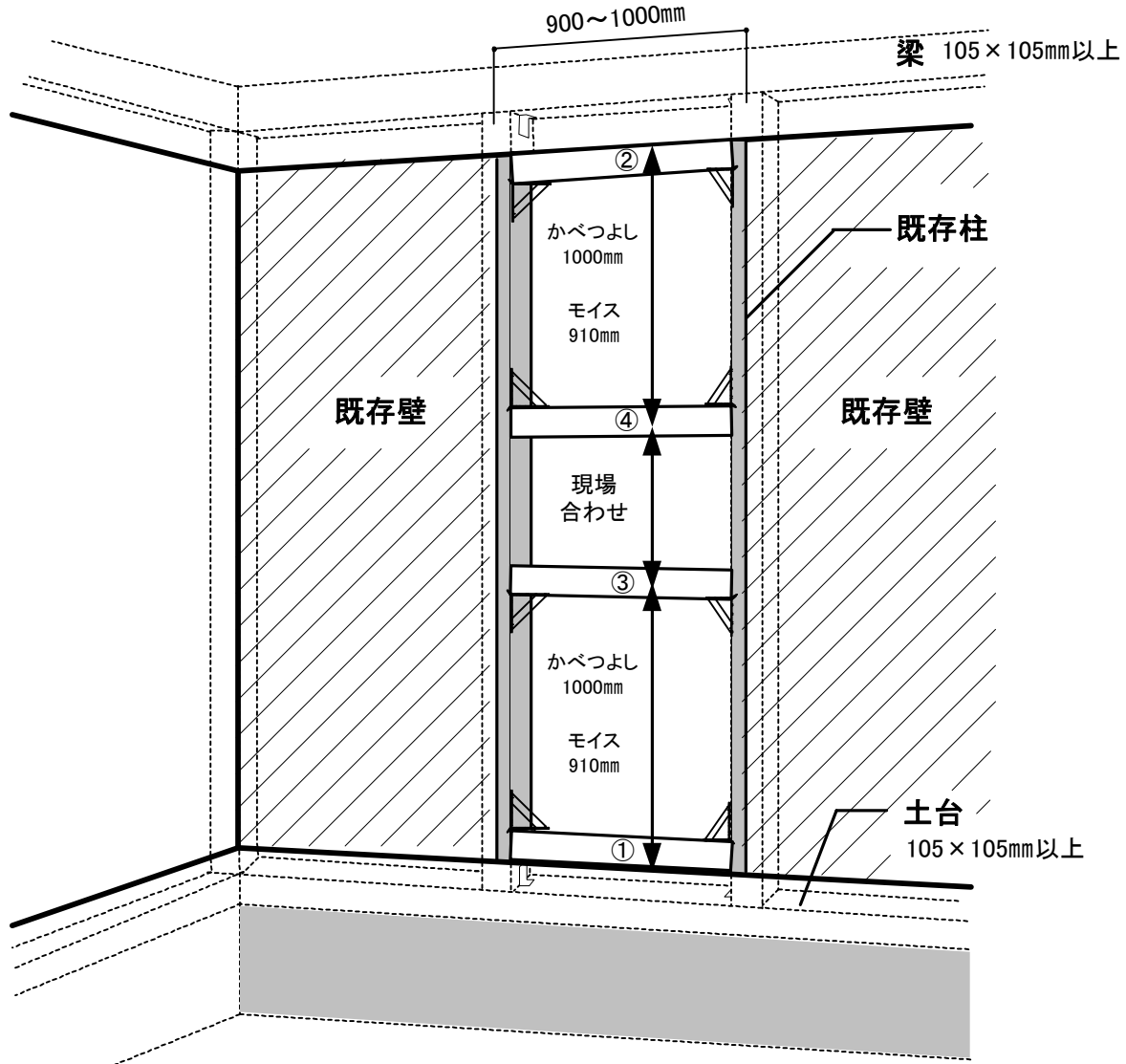
**耐力壁の1、2階位置、倍率により同梱の金物(オリジナルコーナー金物)では、強度が不足することがあります。その場合適宜告示1460号を満足するように補強を行なってください。**

- ・袋入りの断熱材が施工されている場合、一度ていねいに取り外し、柱頭・柱脚金物を取り付け後、再施工してください。

## ①-2) 横棧の施工



・横棧4本に、予め耐震補強用専用ビスで横棧受け金物を2個ずつ設置して置きます

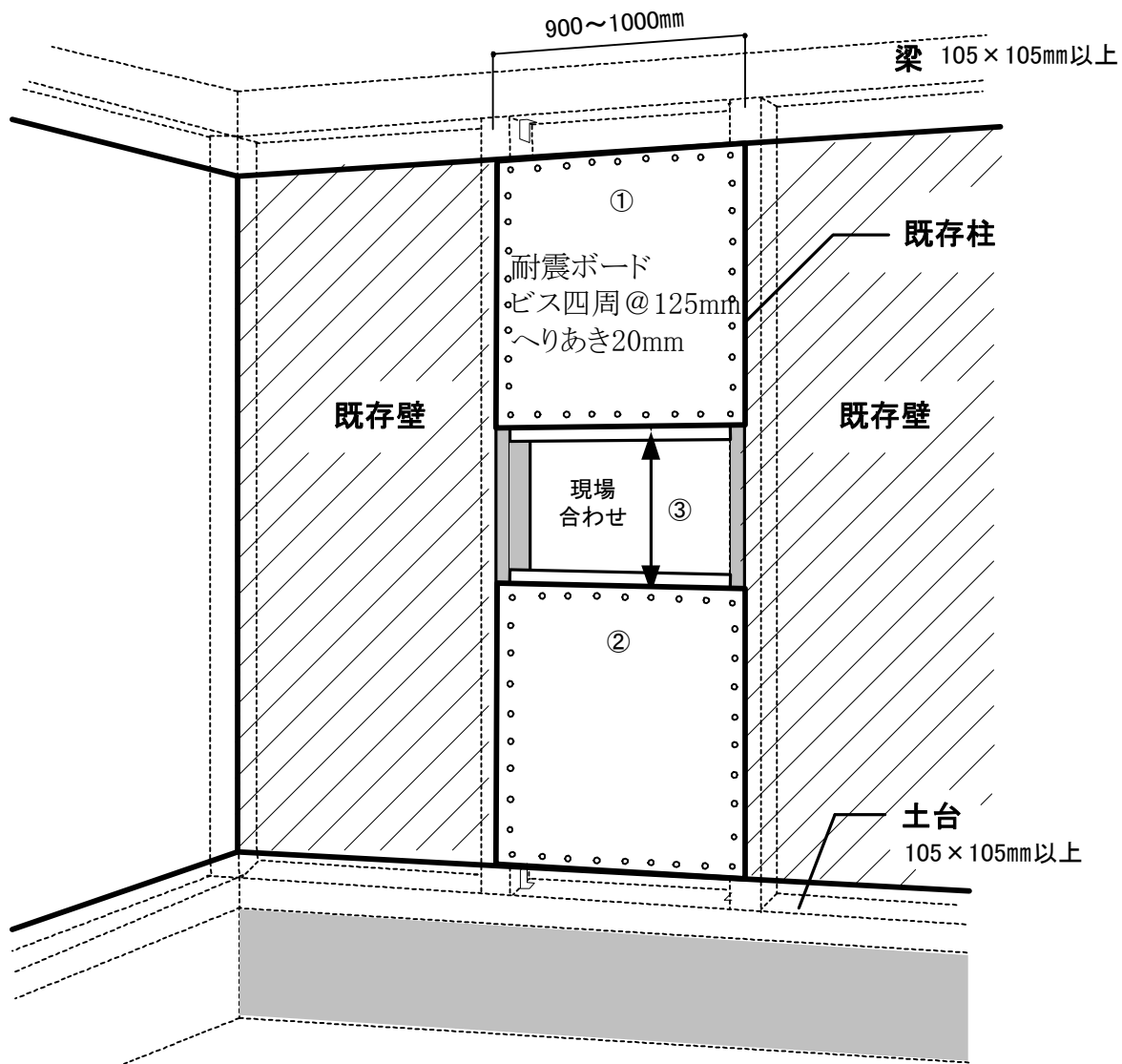


施工編

### 【横棧の施工準備】

- ・横棧は面材の上下部を留めつける受材で、壁の上下及び面材継手部①～④の4本設置する。上図を参考に、横棧を施工する位置に墨付けをします。
- ・柱間の内寸を測り、横棧の長さを決定し、切断します。
- ・壁1P中央に間柱がある場合、横棧を勝たせ、ぶつかる部分は間柱を切り欠いておきます。  
**※横棧は耐震面で重要な部材なので、切り欠いたり、途中で切断し継ぎ足すことは禁止。**  
**既存が土塗の個所に施工する場合も、土塗を欠いて施工します。**
- ・**※既存の筋かいとぶつかる場合は、横棧を優先するために、筋かいを欠損することになるため、両者の併用（壁倍率の足し算）は出来ません。**
- ・**※横棧は両端を柱等に緊結するため、中央に既存間柱があっても、横棧を間柱に釘留めする必要はありません。**

### ①-3) 耐震ボードの施工・仕上げ



#### 【耐震ボードの施工】

- ・既存壁の開口した幅を測り、3枚の耐震ボードの片側を切断します。
- ・①、②を耐震補強用専用ビスでボードを留めていきます。  
ボードを留める際は、ボードに示してあるビスピッチプリントを参考に@125mm間隔以内でビス留めします。ボード四周のビスは、**ボード端からへりあき20mm以上**取って下さい。
- ※ボードの中通りは、仮に間柱があってもビスは打ちません。
- ※ボードを留めるビスは、性能を発揮するのに非常に重要な部材です。必ず同梱されているビスを使用してください。
- ※ビスの頭とボードが揃うように施工してください。ボードのビスは、頭がめりこみ過ぎないように注意してください。(2mm程度まで)

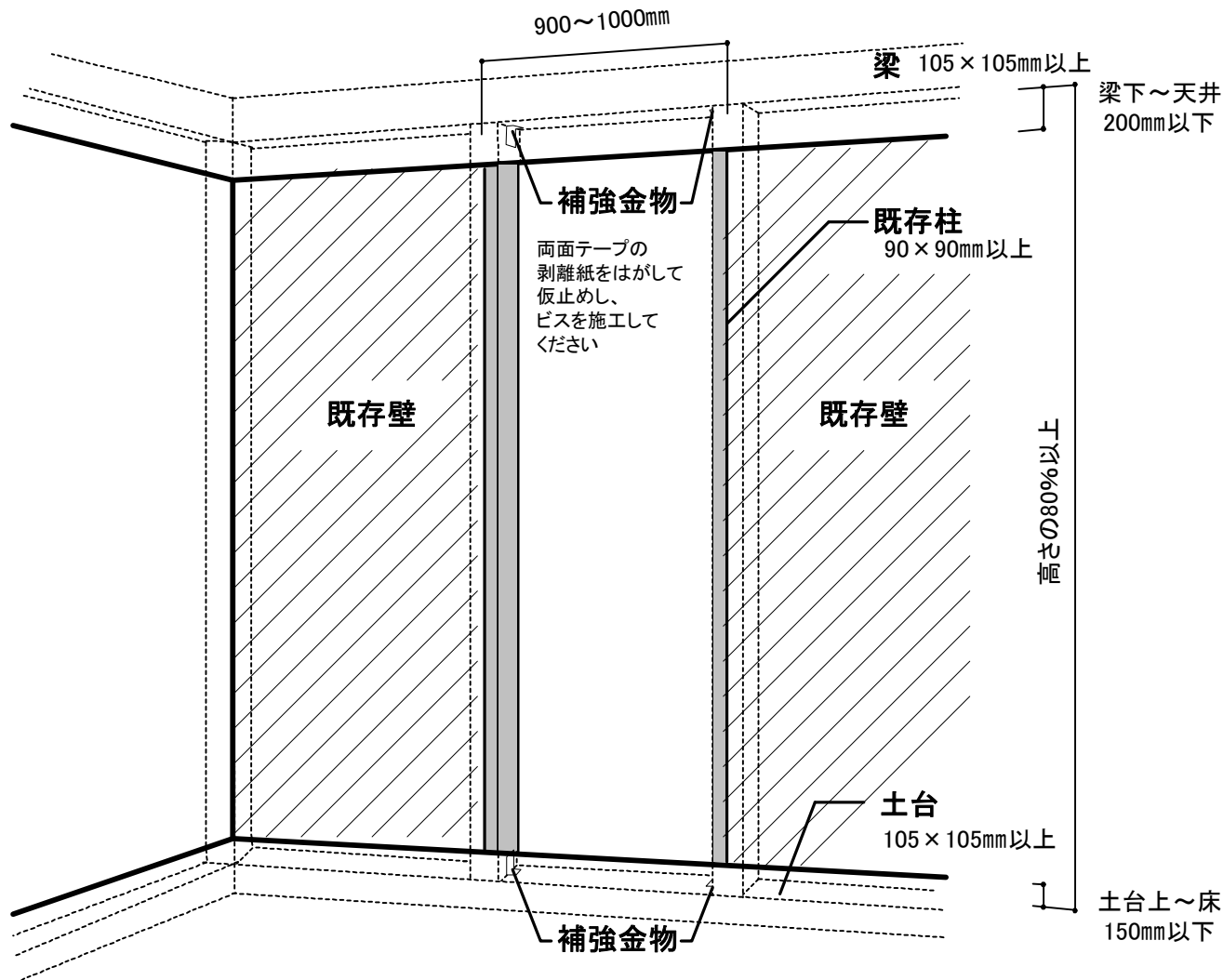
#### 【仕上げ】

- ・再度ビスがボードに必要以上にめり込んでいないか確認をします。
- ・内装のクロス仕上げは各メーカーの施工工法に準じます。  
モイスかべつよしについては、直張り仕上げが可能です。
- ※かべつよし（MDF）は、水分を吸収する性質がある為、ボードに直接クロスを貼ると、目すきやヨレなどが発生する場合があります。ベニヤなどを貼って頂いた上で、クロスなどを施工してください。
- ※かべつよし（MDF）湿式で施工する建築建材（じゅらく、シックイ、塗り壁等）は乾燥する時には必ず収縮する為、ひび割れなどが発生しやすくなります。必ずベニヤなどの下地材を用いて施工してください。

## ②直張り大壁仕様B、b(左右とも柱)

所定の補強効果(壁強さ倍率)にて設計・施工する際には、これら概要図の中の設計寸法範囲を必ず守っていただく必要がありますのでご注意ください。

### ②-1) 施工準備、軸組材の確認、柱頭・柱脚の補強金物取付



#### 【施工準備・軸組材の確認】

- ・施工する箇所の内壁をはがし、躯体を現す。床、天井部分は取り外さなくても良いが、柱頭部の補強金物を施工するために天井を部分的に外したり、土台・柱が腐朽、劣化し修繕・交換などを行う場合は取り外すこともあります。
- ・土台、梁、胴差及び桁の断面寸法は105×105mm以上とします。  
柱の断面寸法は90×90mm以上とします。

#### 【柱頭・柱脚の補強金物取り付け】

- ・柱頭と柱脚には事前の補強計画(※)に従い、当該部分の壁倍率(有効倍率)に応じた引き抜け防止措置を講じる。施工編P31(14.2kN用)を参照ください。

※建築基準法に準じたN値計算により柱頭・柱脚の補強金物を選定し、取り付ける。

**耐力壁の1、2階位置、倍率により同梱の金物(オリジナルコーナー金物)では、強度が不足することがあります。その場合適宜告示1460号を満足するように補強を行なってください。**

- ・袋入りの断熱材が施工されている場合、一度ていねいに取り外し、柱頭・柱脚金物を取り付け後、再施工してください。

②-2) 横棧の施工は施工編 P.5 の内容を必ずご覧ください。

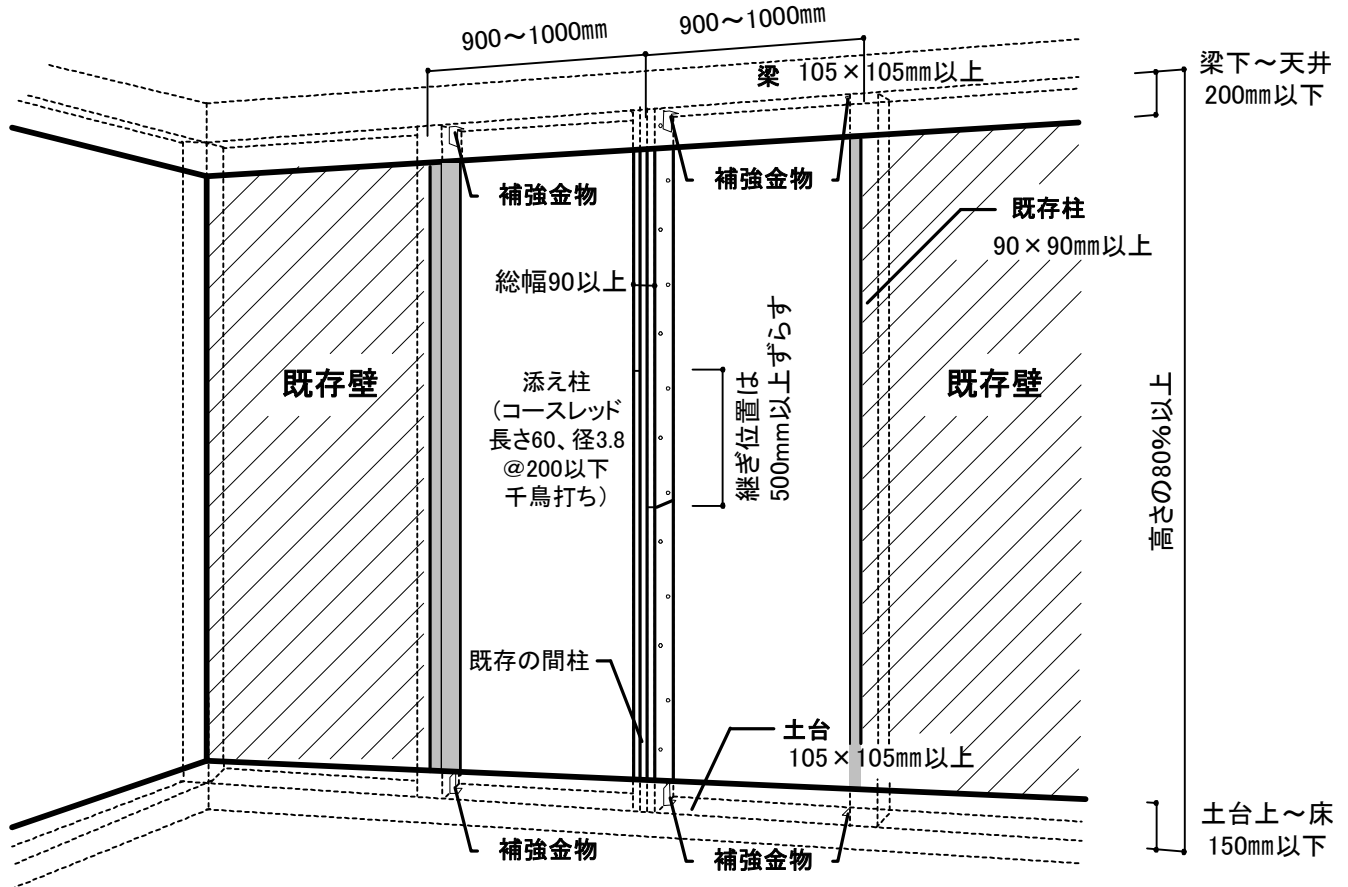
②-3) 耐震ボードの施工・仕上げは施工編 P.6 の内容を必ずご覧ください。

### ③直張り大壁仕様C、c (柱と添え柱)

所定の補強効果(壁強さ倍率)にて設計・施工する際には、これら概要図の中の設計寸法範囲を必ず守っていただく必要がありますのでご注意ください。

※下図のような施工では、「かべつよし」「モイスかべつよし」は2梱必要となりますのでご注意ください。

#### ③-1) 施工準備、軸組材の確認、添え柱の施工、柱頭・柱脚の補強金物取付



施工編

#### 【施工準備・軸組材の確認】

施工編 P.7 の内容を必ずご覧ください。

#### 【添え柱の施工】

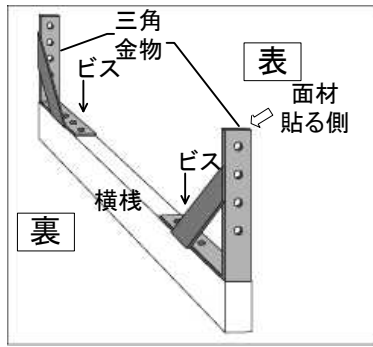
- ・面材を継ぐ部分(2Pの中間)には、既存の間柱を挟んで添え柱を両側から取り付けます。既存の間柱と一体となった断面寸法は、幅90×奥行90mm以上とします。
- ・既存間柱の断面寸法は幅30×奥行90mm以上とし、側面部分に「添え柱」を施工します。
- ・添え柱は30×90mm以上の木材(現場調達)を用い、コーススレッド長さ60mm、径3.8mm以上(現場調達)のビスにて@200mm以下で既存の間柱に留めつけます。
- ・添え柱は次ページの横桟留め付けの際の三角金物に干渉しないように注意してください。
- ・添え柱は、柱と同じ長さで、横架材間にすきまなく施工します。このとき添え柱は1本通して施工するか、2本に分けて継ぎ足し施工します。2本で継ぎ足す場合、既存の間柱を挟んだ両側の添え柱継ぎ位置は、高さ方向に500mm以上ずらします。

#### 【柱頭・柱脚の補強金物取り付け】

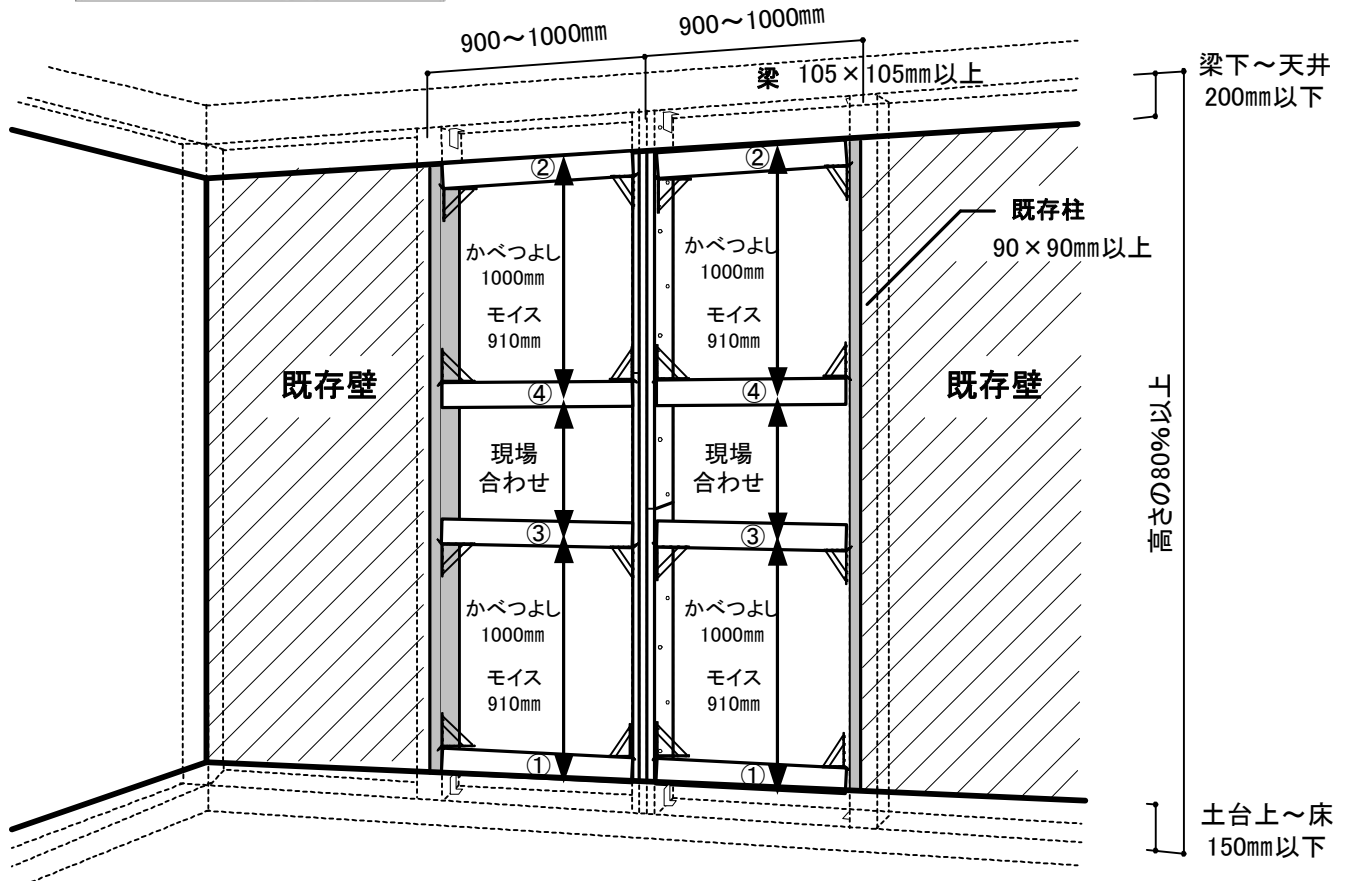
施工編 P.7 の内容を必ずご覧ください。

- ・柱頭・柱脚の補強金物の施工は、添え柱を施工した後に行います。

### ③-2) 横棧の施工



・横棧4本に、予め耐震補強用専用ビスで横棧受け金物を2個ずつ設置して置きます



施工編

#### 【横棧の施工準備】

- ・横棧は面材の上下部を留めつける受材で、壁の上下及び面材継手部①～④の4本設置する。上図を参考に、横棧を施工する位置に墨付けをします。
  - ・柱間の内寸を測り、横棧の長さを決定し、切断します。
  - ・壁1P中央に間柱がある場合、横棧を勝たせ、ぶつかる部分は間柱を切り欠いておきます。
- ※横棧は耐震面で重要な部材なので、切り欠いたり、途中で切断し継ぎ足すことは禁止。**  
**既存が土塗の個所に施工する場合も、土塗を欠いて施工します。**  
**※既存の筋かいとぶつかる場合は、横棧を優先するために、筋かいを欠損することになるため、両者の併用（壁倍率の足し算）は出来ません。**  
**※横棧は両端を柱等に緊結するため、中央に既存間柱があっても、横棧を間柱に釘留めする必要はありません。**

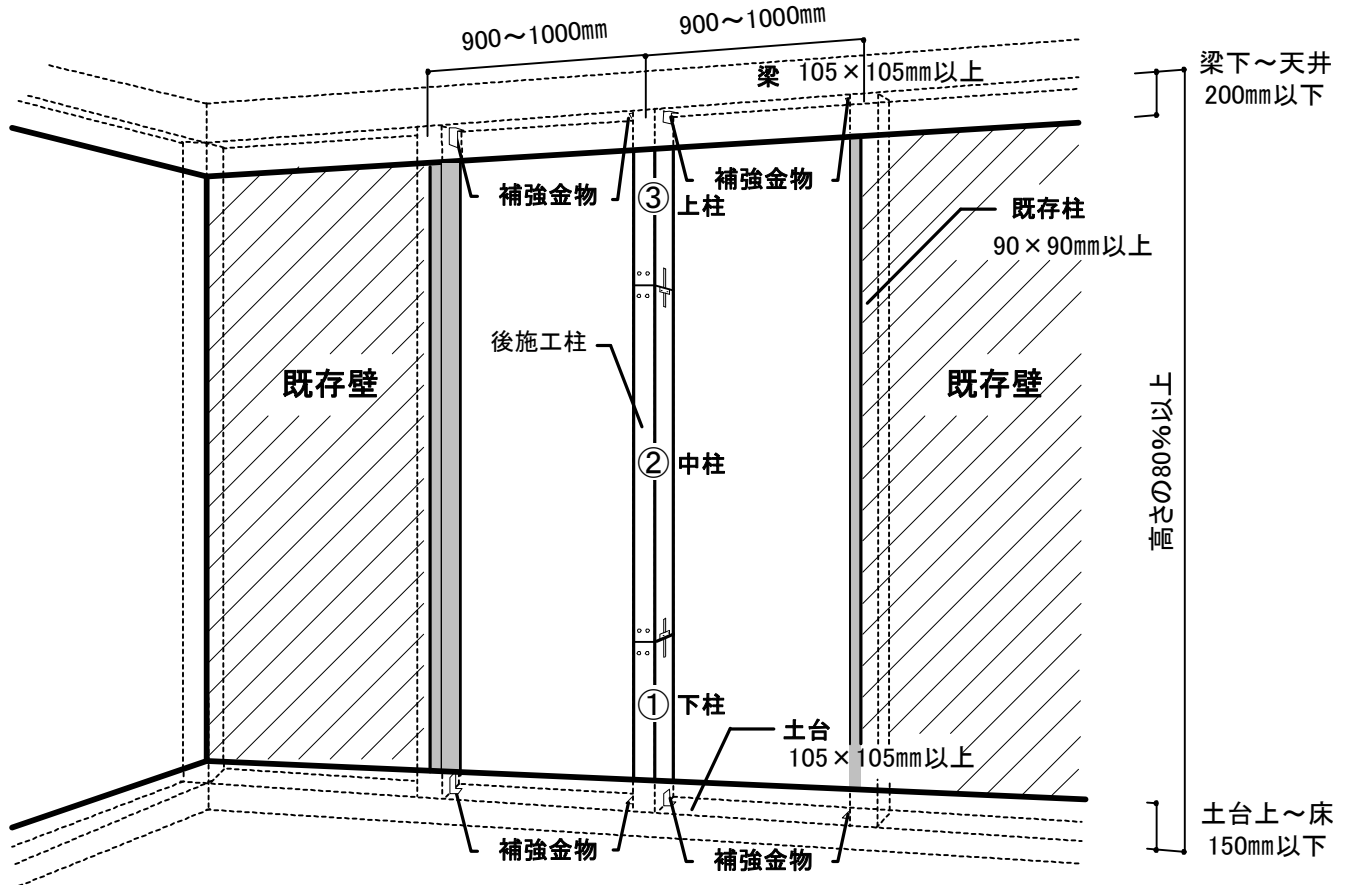
③-3) 耐震ボードの施工・仕上げは施工編 P.6 の内容を必ずご覧ください。

## ④直張り大壁仕様D、d（柱と後施工柱）

所定の補強効果（壁強さ倍率）にて設計・施工する際には、これら概要図の中の設計寸法範囲を必ず守っていただく必要がありますのでご注意ください。

※直張り大壁仕様では、別途後施工柱キット（参考商品名）「板柱太」が必要となりますのでご注意ください。また、「かべつよし」「モイスかべつよし」は2梱必要です。

### ④-1) 施工準備、軸組材の確認、後施工柱の施工、柱頭・柱脚の補強金物取付



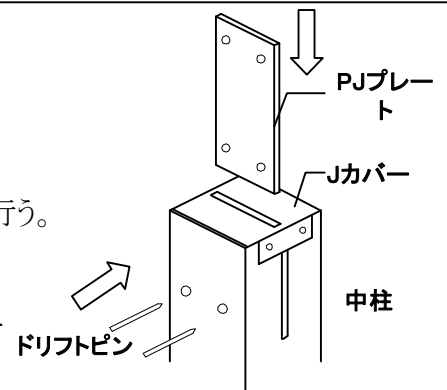
施工編

#### 【施工準備・軸組材の確認】

施工編 P.7 の内容を必ずご覧ください。

#### 【後施工柱の施工、柱頭・柱脚の補強金物取付】

- ・柱脚の墨出しを行い、柱頭についてはレーザーレベル等で墨出しを行う。  
又は、柱頭墨出しを行い、下げ振りで柱脚の墨出しを行う。
  - ・ジョイントカバー（Jカバー）を②中柱へ両サイドへ設置する。
  - ・スリットへPJプレートを挿入します。
  - ・ドリフトピンを先端が尖った側を打ち付け、柱の面に揃える。
  - ・土台～梁までの横架材の寸法を測定し、①下柱と②上柱を余分な長さを均等に切断します。
  - ・①下柱を所定の位置へ設置し、柱頭・柱脚金物を取付ける。
  - ・①下柱の上へ②中柱を設置し、ドリフトピンを仮打ちします。
  - ・②中柱の上へ③上柱を横からスライドさせ設置し、ドリフトピンを仮打ちします。
  - ・③上柱へ柱頭・柱脚金物を取付ける。
  - ・ドリフトピンを柱の面に揃うように打付けます。
- ※②中柱や①下柱・③上柱のスリット端部は絶対に切断しないでください。切断した場合ドリフトピンやPJプレートが収まりませんのでご注意ください。



### ④-2) 横棧の施工は施工編 P.5 の内容を必ずご覧ください。

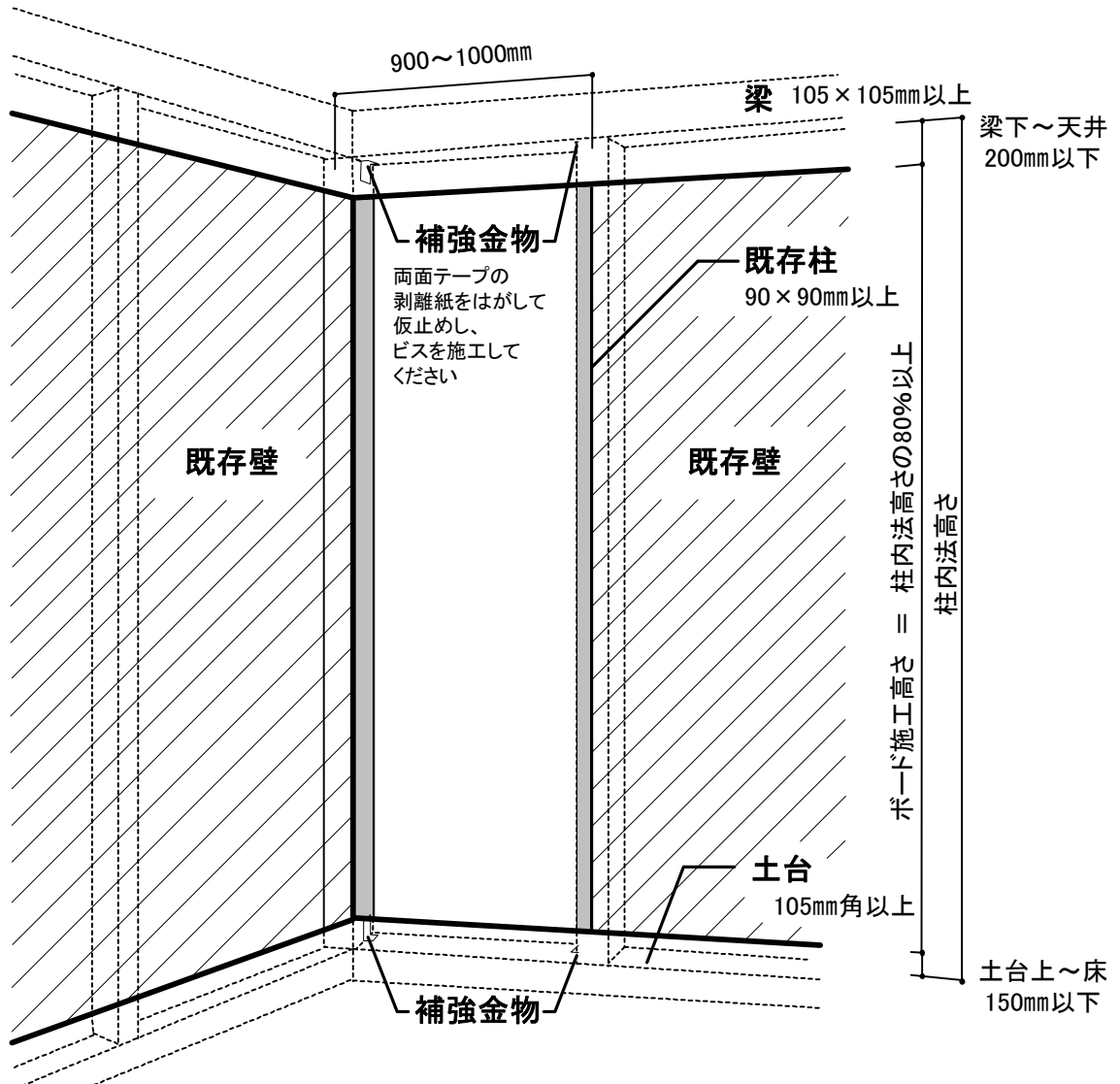
### ④-3) 耐震ボードの施工・仕上げは施工編 P.6 の内容を必ずご覧ください。

## ⑤入隅受材仕様E、e

所定の補強効果(壁強さ倍率)にて設計・施工する際には、これら概要図の中の設計寸法範囲を必ず守っていただく必要がありますのでご注意ください。

※入隅受材施工では、別途「入隅キット」が必要となりますのでご注意ください。

### ⑤-1) 施工準備、軸組材の確認、柱頭・柱脚の補強金物取付



#### 【施工準備・軸組材の確認】

- ・施工する箇所の内壁をはがし、躯体を現す。床、天井部分は取り外さなくても良いが、柱頭部の補強金物を施工するために天井を部分的に外したり、土台・柱が腐朽、劣化し修繕・交換などを行う場合は取り外すこともあります。
- ・土台、梁、胴差及び桁の断面寸法は105×105mm以上とします。  
柱の断面寸法は90×90mm以上とします。

#### 【柱頭・柱脚の補強金物取り付け】

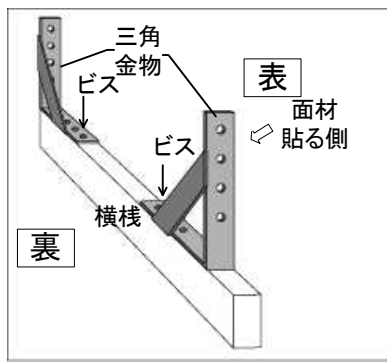
- ・柱頭と柱脚には事前の補強計画(※)に従い、当該部分の壁倍率(有効倍率)に応じた引き抜け防止措置を講じる。施工編P31(14.2kN用)を参照ください。

※建築基準法に準じたN値計算により柱頭・柱脚の補強金物を選定し、取り付ける。

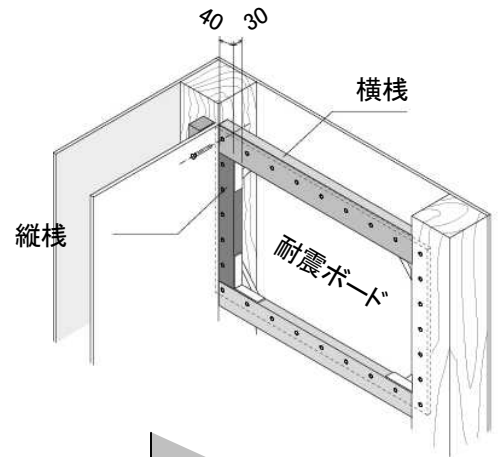
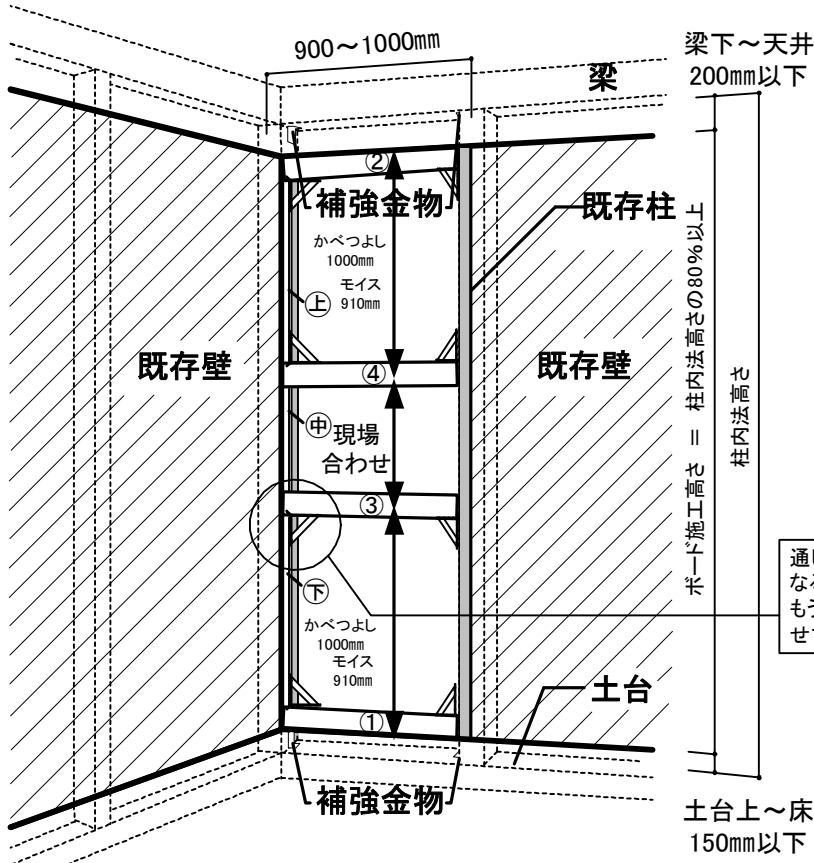
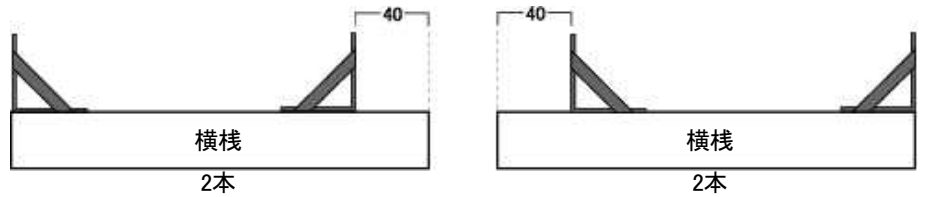
**耐力壁の1、2階位置、倍率により同梱の金物(オリジナルコーナー金物)では、強度が不足することがあります。その場合適宜告示1460号を満足するように補強を行なってください**

- ・袋入りの断熱材が施工されている場合、一度ていねいに取り外し、柱頭・柱脚金物を取り付け後、再施工してください。

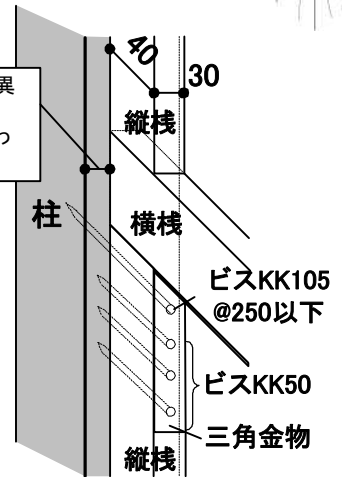
⑤-2) 横棧・縦棧の施工



・横棧4本に、予め耐震補強用専用ビスで横棧受け金物を2個ずつ設置して置きます



通し柱等で柱断面が異なる場合は、もう片方の柱面に合わせて寸法を調整する



施工編

【横棧・縦棧の施工準備】

- ・横棧は面材の上下部を留めつける受材で、壁の上下及び面材継手部①～④の4本設置する。上図を参考に、横棧を施工する位置に墨付けをします。
- ・⊕・⊖の縦棧(長さ865mm)を上図を参考に、耐震補強専用ビスKK105にて@250以下で留め付けます。
- ・柱間の内寸を測り、横棧の長さを決定し、切断します。
- ・壁1P中央に間柱がある場合、横棧を勝たせ、ぶつかる部分は間柱を切り欠いておきます。
- ※横棧は耐震面で重要な部材なので、切り欠いたり、途中で切断し継ぎ足すことは禁止。既存が土塗の個所に施工する場合も、土塗を欠いて施工します。
- ※既存の筋かいとぶつかる場合は、横棧を優先するために、筋かいを欠損することになるため、両者の併用(壁倍率の足し算)は出来ません。
- ※横棧は両端を柱等に緊結するため、中央に既存間柱があっても、横棧を間柱に釘留めする必要はありません。
- ・⊕の縦棧の長さを決定し、切断し留め付けます。

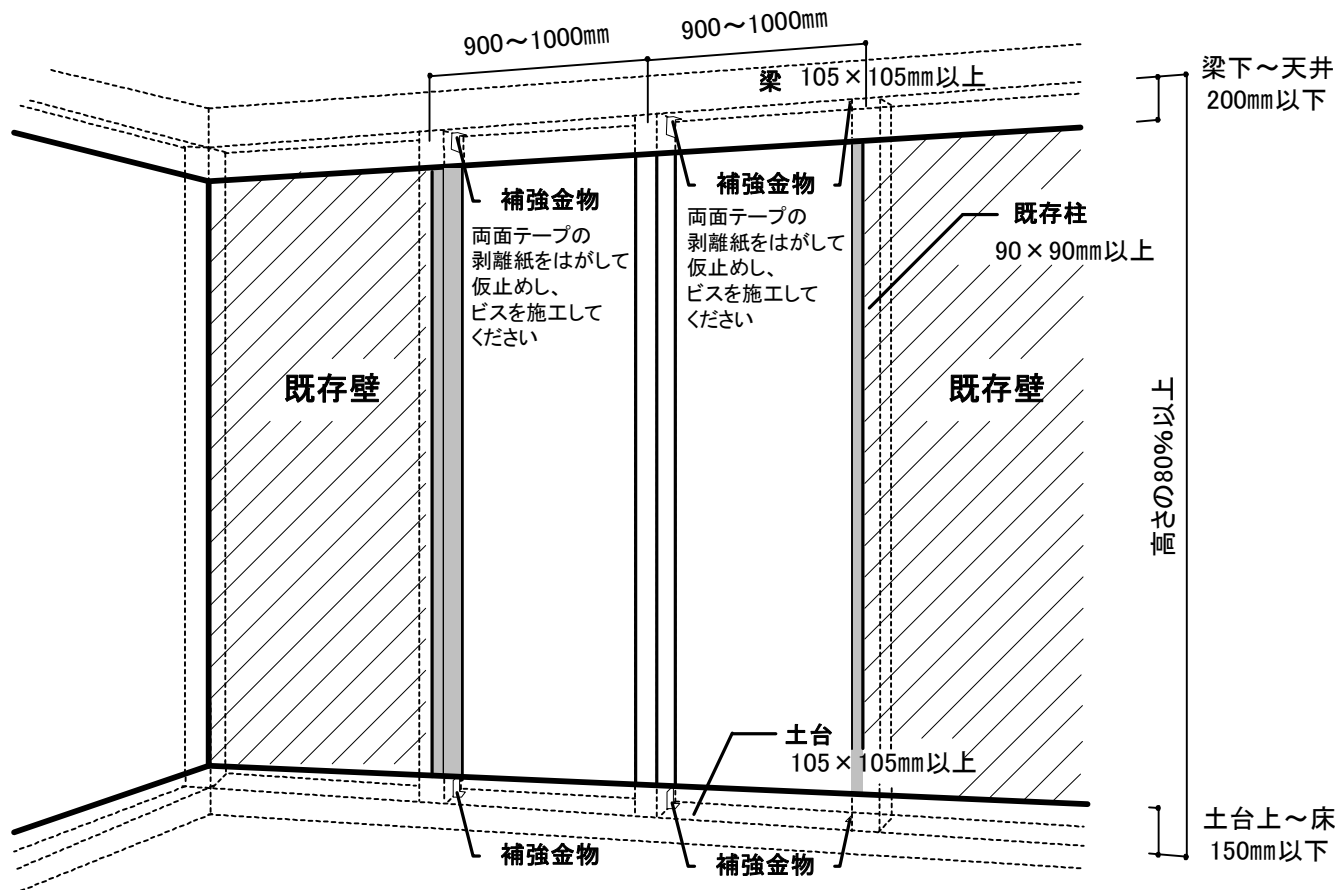
⑤-3) 耐震ボードの施工・仕上げは施工編 P.6 の内容を必ずご覧ください。

## ⑥直張り大壁開口仕様F、f

所定の補強効果(壁強さ倍率)にて設計・施工する際には、これら概要図の中の設計寸法範囲を必ず守っていただく必要がありますのでご注意ください。

※下図のような施工では、(参考商品名)「まどつよし」「モイスまどつよし」2梱必要となりますのでご注意ください。

### ⑥-1) 施工準備、軸組材の確認、添え柱の施工、柱頭・柱脚の補強金物取付



施工編

#### 【施工準備・軸組材の確認】

- ・施工する箇所の内壁をはがし、躯体を現す。床、天井部分は取り外さなくても良いが、柱頭部の補強金物を施工するために天井を部分的に外したり、土台・柱が腐朽、劣化し修繕・交換などを行う場合は取り外すこともあります。
- ・土台、梁、胴差及び桁の断面寸法は105×105mm以上とします。  
柱の断面寸法は90×90mm以上とします。

#### 【柱頭・柱脚の補強金物取り付け】

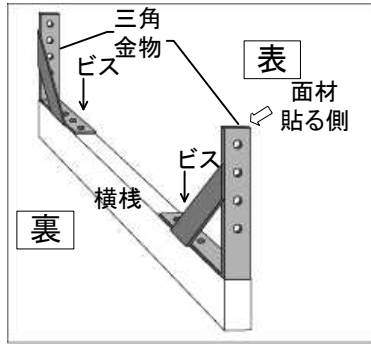
- ・柱頭と柱脚には事前の補強計画(※)に従い、当該部分の壁倍率(有効倍率)に応じた引き抜け防止措置を講じる。施工編P31(14.2kN用)を参照ください。

※建築基準法に準じたN値計算により柱頭・柱脚の補強金物を選定し、取り付ける。

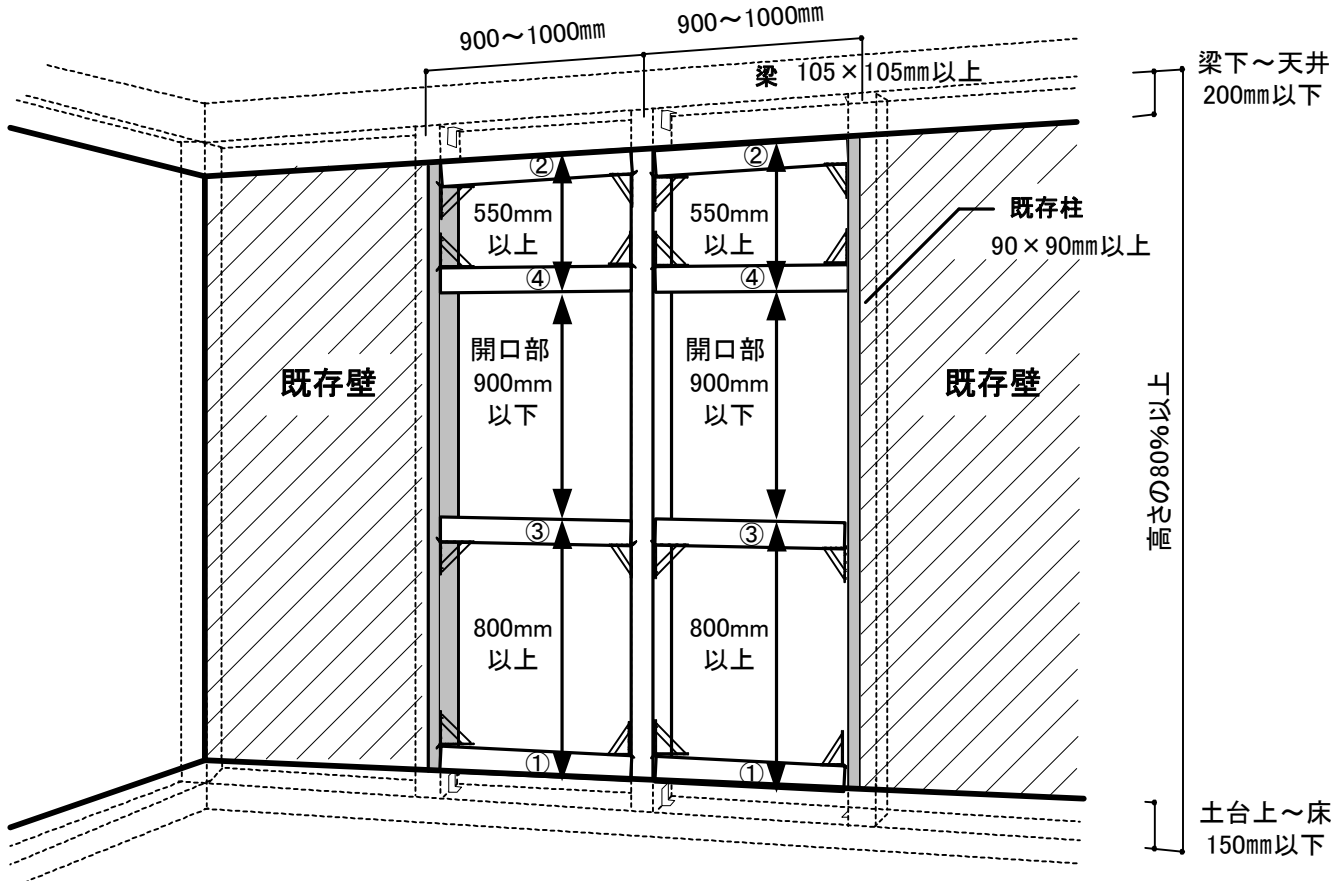
**耐力壁の1、2階位置、倍率により同梱の金物(オリジナルコーナー金物)では、強度が不足することがあります。その場合適宜告示1460号を満足するように補強を行なってください。**

- ・袋入りの断熱材が施工されている場合、一度ていねいに取り外し、柱頭・柱脚金物を取り付け後、再施工してください。

## ⑥-2) 横棧の施工



・横棧4本に、予め耐震補強用専用ビスで横棧受け金物を2個ずつ設置して置きます



施工編

### 【横棧の施工準備】

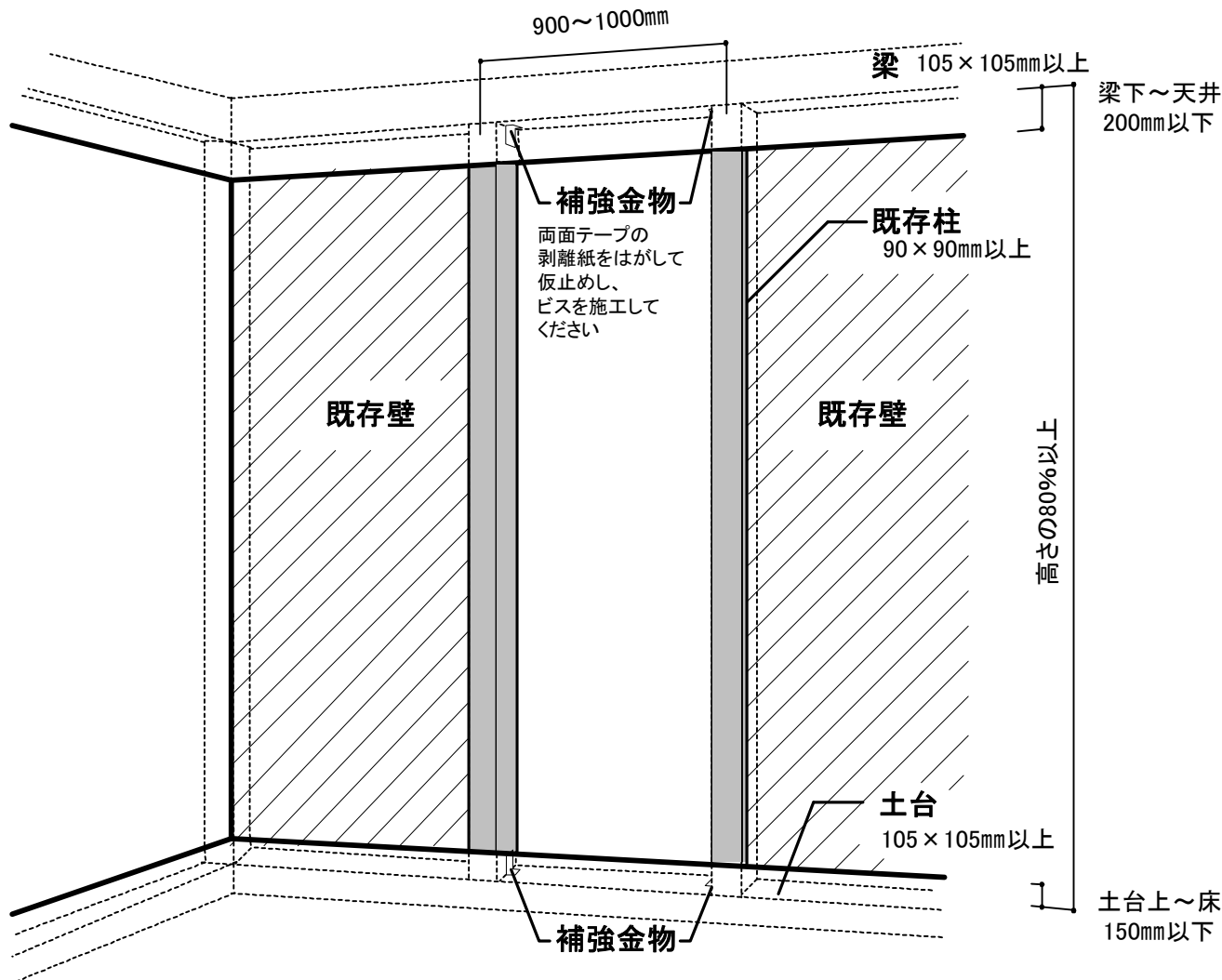
- ・横棧は面材の上下部を留めつける受材で、壁の上下及び面材継手部①～④の4本設置する。上図を参考に、横棧を施工する位置に墨付けをします。
- ・柱間の内寸を測り、横棧の長さを決定し、切断します。
- ・壁1P中央に間柱がある場合、横棧を勝たせ、ぶつかる部分は間柱を切り欠いておきます。
- ※横棧は耐震面で重要な部材なので、切り欠いたり、途中で切断し継ぎ足すことは禁止。既存が土塗の個所に施工する場合も、土塗を欠いて施工します。
- ※既存の筋かいとぶつかる場合は、横棧を優先するために、筋かいを欠損することになるため、両者の併用（壁倍率の足し算）は出来ません。
- ※横棧は両端を柱等に緊結するため、中央に既存間柱があっても、横棧を間柱に釘留めする必要はありません。

⑥-3) 耐震ボードの施工・仕上げは施工編 P.6 の内容を必ずご覧ください。

## ⑦真壁仕様G、g

所定の補強効果(壁強さ倍率)にて設計・施工する際には、これら概要図の中の設計寸法範囲を必ず守っていただく必要がありますのでご注意ください。

### ⑦-1) 施工準備、軸組材の確認、柱頭・柱脚の補強金物取付



施工編

#### 【施工準備・軸組材の確認】

- ・施工する箇所の内壁をはがし、躯体を現す。床、天井部分は取り外さなくても良いが、柱頭部の補強金物を施工するために天井を部分的に外したり、土台・柱が腐朽、劣化し修繕・交換などを行う場合は取り外すこともあります。
- ・土台、梁、胴差及び桁の断面寸法は105×105mm以上とします。  
柱の断面寸法は90×90mm以上とします。

#### 【柱頭・柱脚の補強金物取り付け】

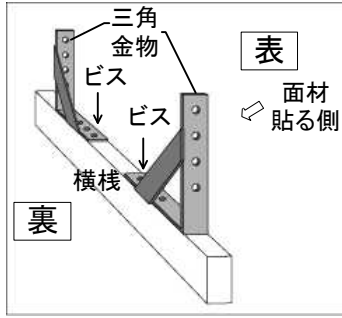
- ・柱頭と柱脚には事前の補強計画(※)に従い、当該部分の壁倍率(有効倍率)に応じた引き抜け防止措置を講じる。施工編P31(14.2kN用)を参照ください。

※建築基準法に準じたN値計算により柱頭・柱脚の補強金物を選定し、取り付ける。

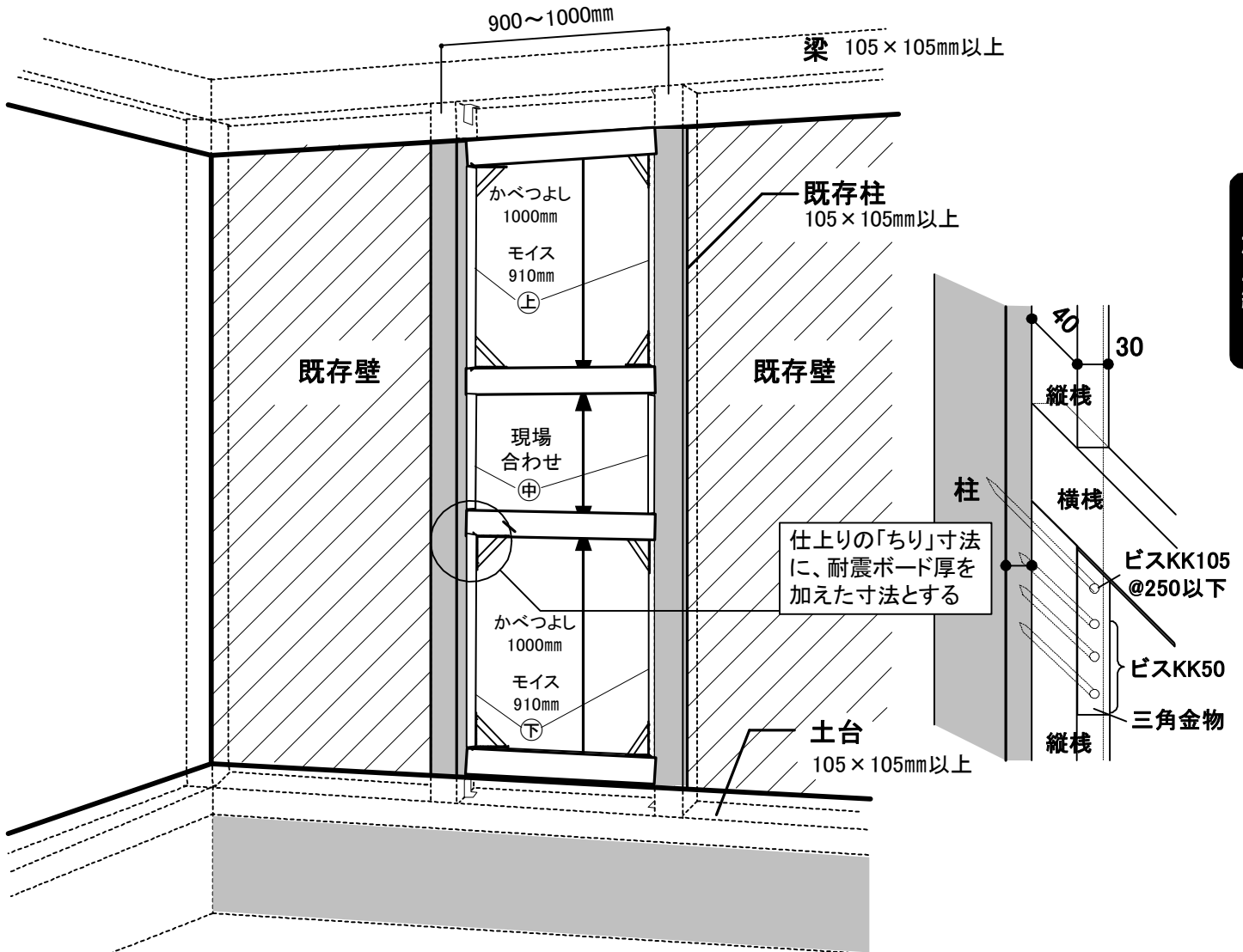
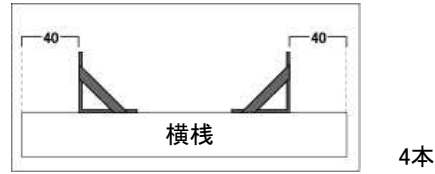
**耐力壁の1、2階位置、倍率により同梱の金物(オリジナルコーナー金物)では、強度が不足することがあります。その場合適宜告示1460号を満足するように補強を行なってください。**

- ・袋入りの断熱材が施工されている場合、一度ていねいに取り外し、柱頭・柱脚金物を取り付け後、再施工してください。

## ⑦-2) 横棧・縦棧の施工



・横棧4本に、予め耐震補強用専用ビスで横棧受け金物を2個ずつ設置して置きます

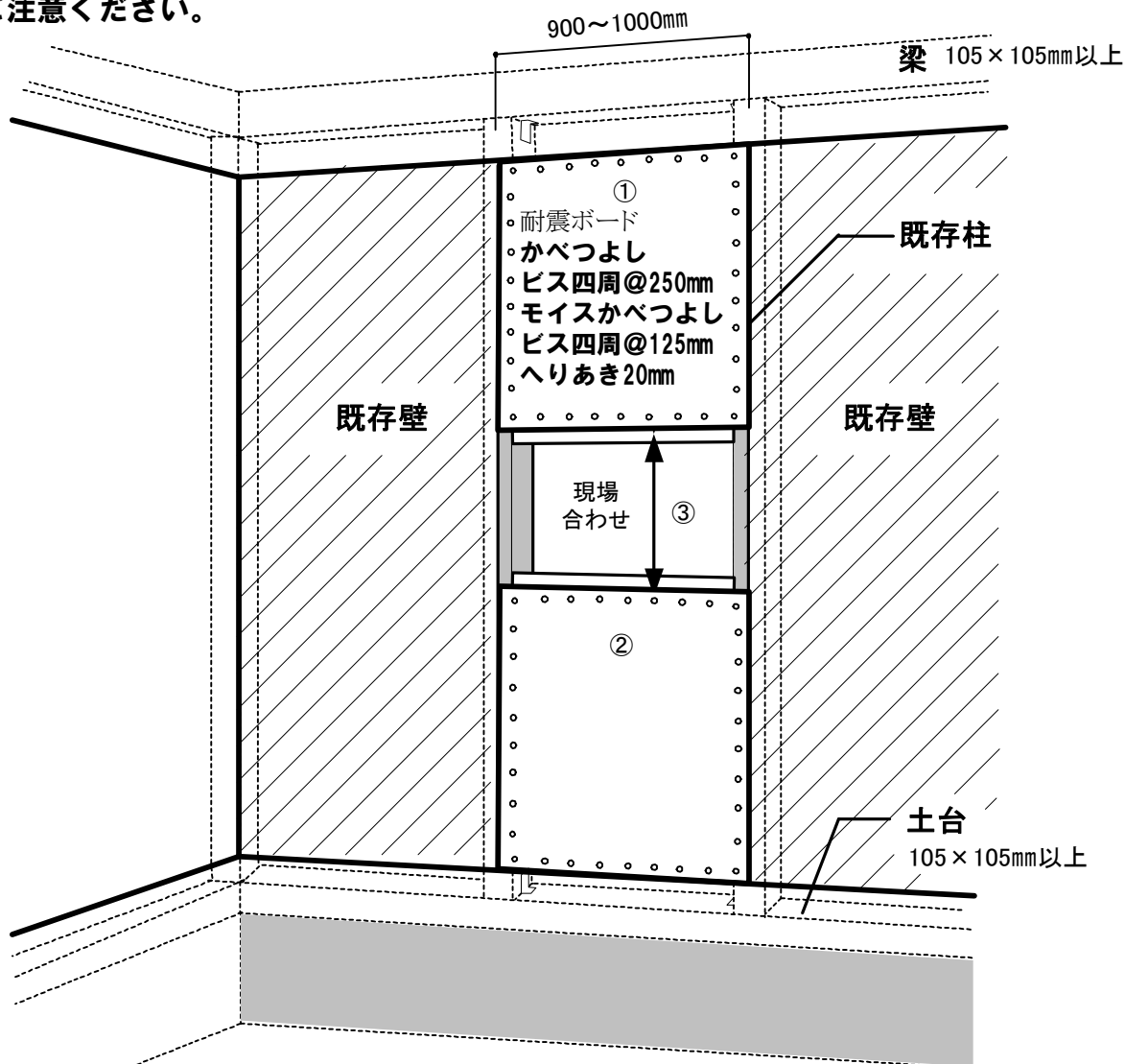


### 【横棧・縦棧の施工準備】

- ・横棧は面材の上下部を留めつける受材で、壁の上下及び面材継手部①～④の4本設置する。上図を参考に、横棧を施工する位置に墨付けをします。
- ・柱間の内寸を測り、横棧の長さを決定し、切断します。
- ・①・④の縦棧(長さ865mm)を上図を参考に、耐震補強専用ビスKK105にて@250以下で留め付けます。
- ・壁1P中央に間柱がある場合、横棧を勝たせ、ぶつかる部分は間柱を切り欠いておきます。  
**※横棧は耐震面で重要な部材なので、切り欠いたり、途中で切断し継ぎ足すことは禁止。**  
**既存が土塗の個所に施工する場合も、土塗を欠いて施工します。**
- ・**※既存の筋かいとぶつかる場合は、横棧を優先するために、筋かいを欠損することになるため、両者の併用(壁倍率の足し算)は出来ません。**
- ・**※横棧は両端を柱等に緊結するため、中央に既存間柱があっても、横棧を間柱に釘留めする必要はありません。**
- ・②の縦棧の長さを決定し、切断し留め付けます。

### ⑦-3) 耐震ボードの施工・仕上げ

※ビスピッチが「かべつよし」@250mm以下、「モイスかべつよし」@125mm以下となり異なりますのでご注意ください。



#### 【耐震ボードの施工】

- ・既存壁の開口した幅を測り、3枚の耐震ボードの片側を切断します。
- ・①、②を耐震補強用専用ビスでボードを留めていきます。  
ボードを留める際は、ボードに示してあるビスピッチプリントを参考に**かべつよし@250mm間隔以内、モイスかべつよし@125mm間隔以内**でビス留めします。ボード四周のビスは、**ボード端からへりあき20mm以上**取って下さい。
- ※ボードの中通りは、仮に間柱があってもビスは打ちません。
- ※ボードを留めるビスは、性能を発揮するのに非常に重要な部材です。必ず同梱されているビスを使用してください。
- ※ビスの頭とボードが揃うように施工してください。ボードのビスは、頭がめりこみ過ぎないように注意してください。(2mm程度まで)

#### 【仕上げ】

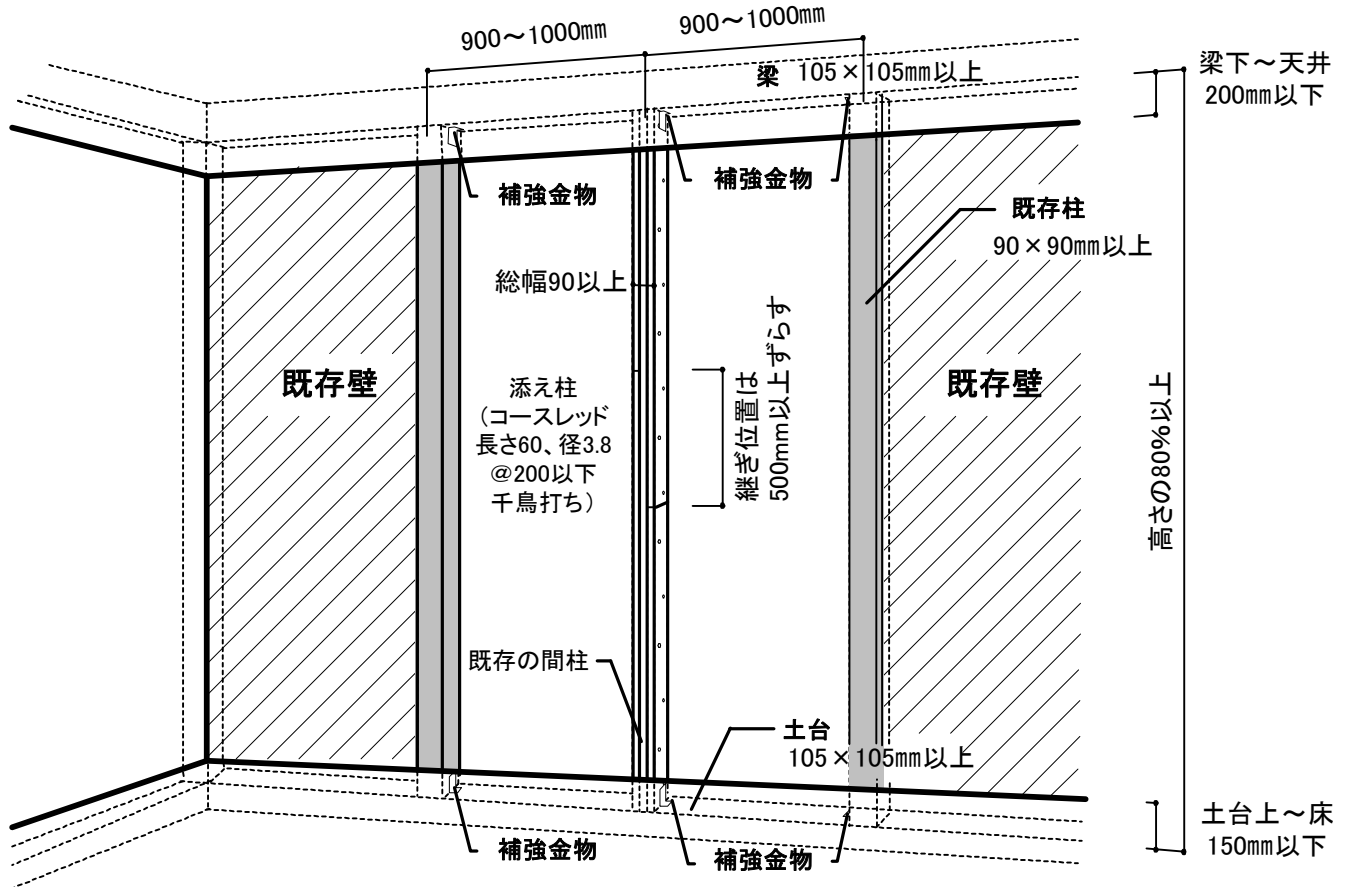
- ・再度ビスがボードに必要以上にめり込んでいないか確認をします。
- ・内装のクロス仕上げは各メーカーの施工工法に準じます。  
モイスかべつよしについては、直張り仕上げが可能です。
- ※かべつよし(MDF)は、水分を吸収する性質がある為、ボードに直接クロスを貼ると、目ずきやヨレなどが発生する場合があります。ベニヤなどを貼って頂いた上で、クロスなどを施工してください。
- ※かべつよし(MDF)湿式で施工する建築建材(じゅらく、シックイ、塗り壁等)は乾燥する時には必ず収縮する為、ひび割れなどが発生しやすくなります。必ずベニヤなどの下地材を用いて施工してください。

## ⑧真壁仕様H、h(柱と添え柱)

所定の補強効果(壁強さ倍率)にて設計・施工する際には、これら概要図の中の設計寸法範囲を必ず守っていただく必要がありますのでご注意ください。

※下図のような施工では、「かべつよし」「モイスかべつよし」は2梱必要となりますのでご注意ください。

### ⑧-1) 施工準備、軸組材の確認、添え柱の施工、柱頭・柱脚の補強金物取付



施工編

#### 【施工準備・軸組材の確認】

**施工編 P.7 の内容を必ずご覧ください。**

#### 【添え柱の施工】

- ・面材を継ぐ部分(2Pの中間)には、既存の間柱を挟んで添え柱を両側から取り付けます。既存の間柱と一体となった断面寸法は、幅90×奥行48mm以上とします。
- ・既存間柱の断面寸法は幅30×奥行48mm以上とし、側面部分に「添え柱」を施工します。
- ・添え柱は30×48mm以上の木材(現場調達)を用い、コースレッド長さ60mm、径3.8mm(現場調達)以上のビスにて@200mm以下で既存の間柱に留めつけます。
- ・添え柱は次ページの横桟留め付けの際の三角金物に干渉しないように注意してください。
- ・添え柱は、柱と同じ長さで、横架材間にすきまなく施工します。このとき添え柱は1本通して施工するか、2本に分けて継ぎ足し施工します。2本で継ぎ足す場合、既存の間柱を挟んだ両側の添え柱継ぎ位置は、高さ方向に500mm以上ずらします。

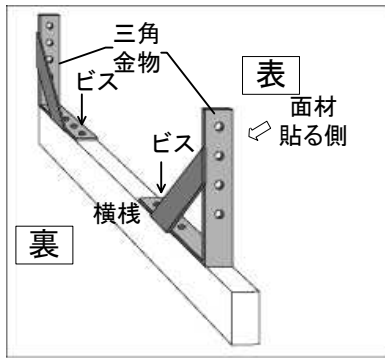
※「真壁タイプ」に同梱されている縦桟は、添え柱に使用しないでください。

#### 【柱頭・柱脚の補強金物取り付け】

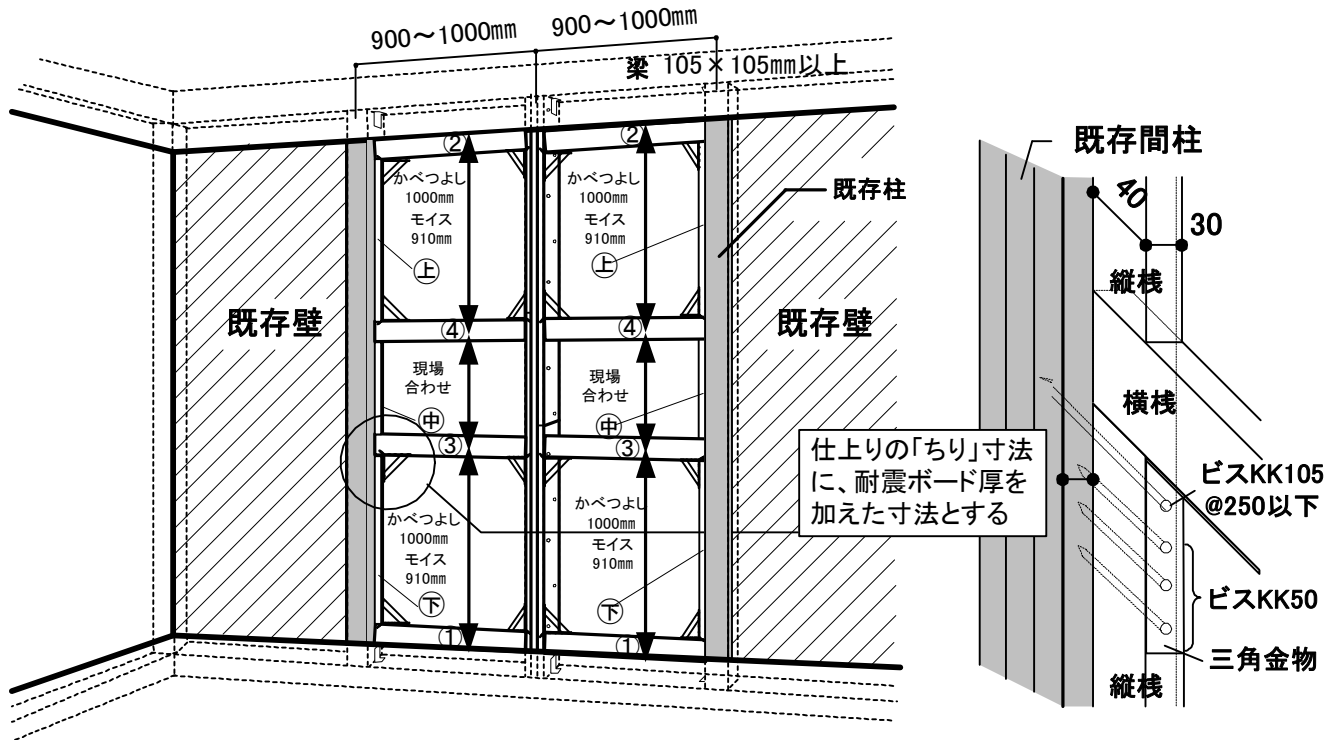
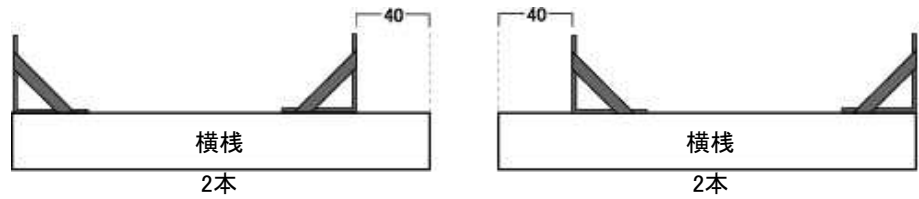
**施工編 P.7 の内容を必ずご覧ください。**

- ・柱頭・柱脚の補強金物の施工は、添え柱を施工した後に行います。

## ⑧-2) 横棧・縦棧の施工



・横棧4本に、予め耐震補強用専用ビスで横棧受け金物を2個ずつ設置して置きます



施工編

### 【横棧の施工準備】

- ・横棧は面材の上下部を留めつける受材で、壁の上下及び面材継手部①～④の4本設置する。上図を参考に、横棧を施工する位置に墨付けをします。
- ・柱間の内寸を測り、横棧の長さを決定し、切断します。
- ・Ⓐ・Ⓑの縦棧(長さ865mm)を上図を参考に、耐震補強専用ビスKK105にて@250以下で留め付けます。
- ・壁1P中央に間柱がある場合、横棧を勝たせ、ぶつかる部分は間柱を切り欠いておきます。  
**※横棧は耐震面で重要な部材なので、切り欠いたり、途中で切断し継ぎ足すことは禁止。**  
**既存が土塗の個所に施工する場合も、土塗を欠いて施工します。**
- ・**※既存の筋かいとぶつかる場合は、横棧を優先するために、筋かいを欠損することになるため、両者の併用(壁倍率の足し算)は出来ません。**
- ・**※横棧は両端を柱等に緊結するため、中央に既存間柱があっても、横棧を間柱に釘留めする必要はありません。**
- ・Ⓒの縦棧の長さを決定し、切断し留め付けます。

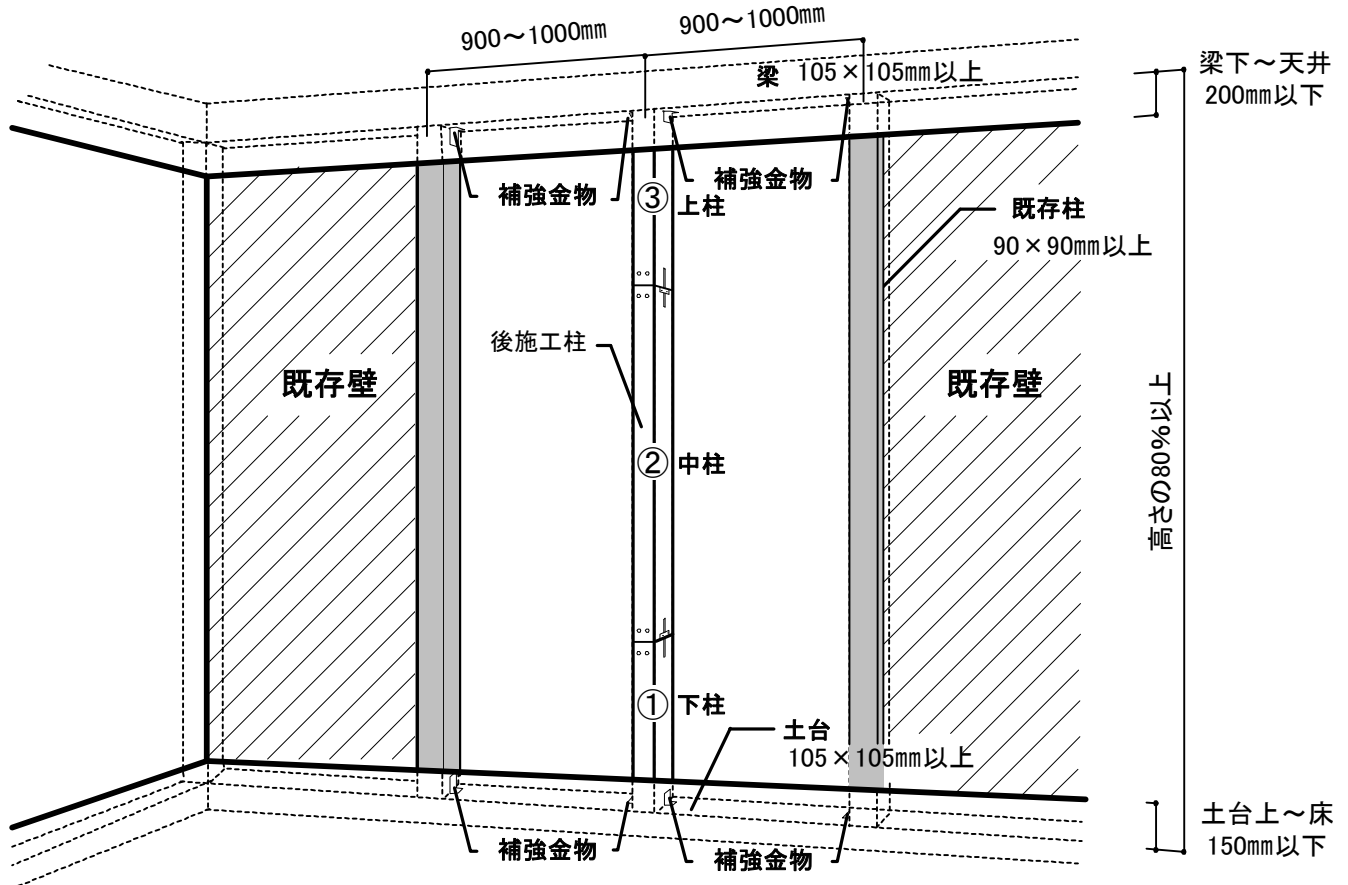
## ⑧-3) 耐震ボードの施工・仕上げは施工編 P.6 の内容を必ずご覧ください。

## ⑨真壁仕様Ⅰ、ⅱ（柱と後施工柱）

所定の補強効果（壁強さ倍率）にて設計・施工する際には、これら概要図の中の設計寸法範囲を必ず守っていただく必要がありますのでご注意ください。

※直張り大壁仕様では、別途後施工柱キット（参考商品名）「板柱太」が必要となりますのでご注意ください。また、「かべつよし」「モイスかべつよし」は2梱必要です。

### ⑨-1) 施工準備、軸組材の確認、後施工柱の施工、柱頭・柱脚の補強金物取付



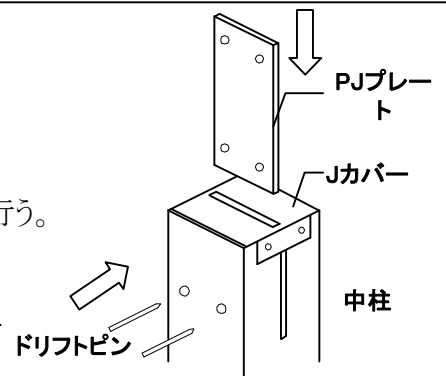
施工編

#### 【施工準備・軸組材の確認】

施工編 P. 15 の内容を必ずご覧ください。

#### 【後施工柱の施工、柱頭・柱脚の補強金物取付】

- ・柱脚の墨出しを行い、柱頭についてはレーザーレベル等で墨出しを行う。  
又は、柱頭墨出しを行い、下げ振りで柱脚の墨出しを行う。
- ・ジョイントカバー（Jカバー）を②中柱へ両サイドへ設置する。
- ・スリットへPJプレートを挿入します。
- ・ドリフトピンを先端が尖った側を打ち付け、柱の面に揃える。
- ・土台～梁までの横架材の寸法を測定し、①下柱と②上柱を余分な長さを均等に切断します。
- ・①下柱を所定の位置へ設置し、柱頭・柱脚金物を取付ける。
- ・①下柱の上へ②中柱を設置し、ドリフトピンを仮打ちします。
- ・②中柱の上へ③上柱を横からスライドさせ設置し、ドリフトピンを仮打ちします。
- ・③上柱へ柱頭・柱脚金物を取付ける。
- ・ドリフトピンを柱の面に揃うように打付けます。



※②中柱や①下柱・③上柱のスリット端部は絶対に切断しないでください。切断した場合ドリフトピンやPJプレートが収まりませんのでご注意ください。

### ⑨-2) 横桟・縦桟の施工は施工編 P. 16 の内容を必ずご覧ください。

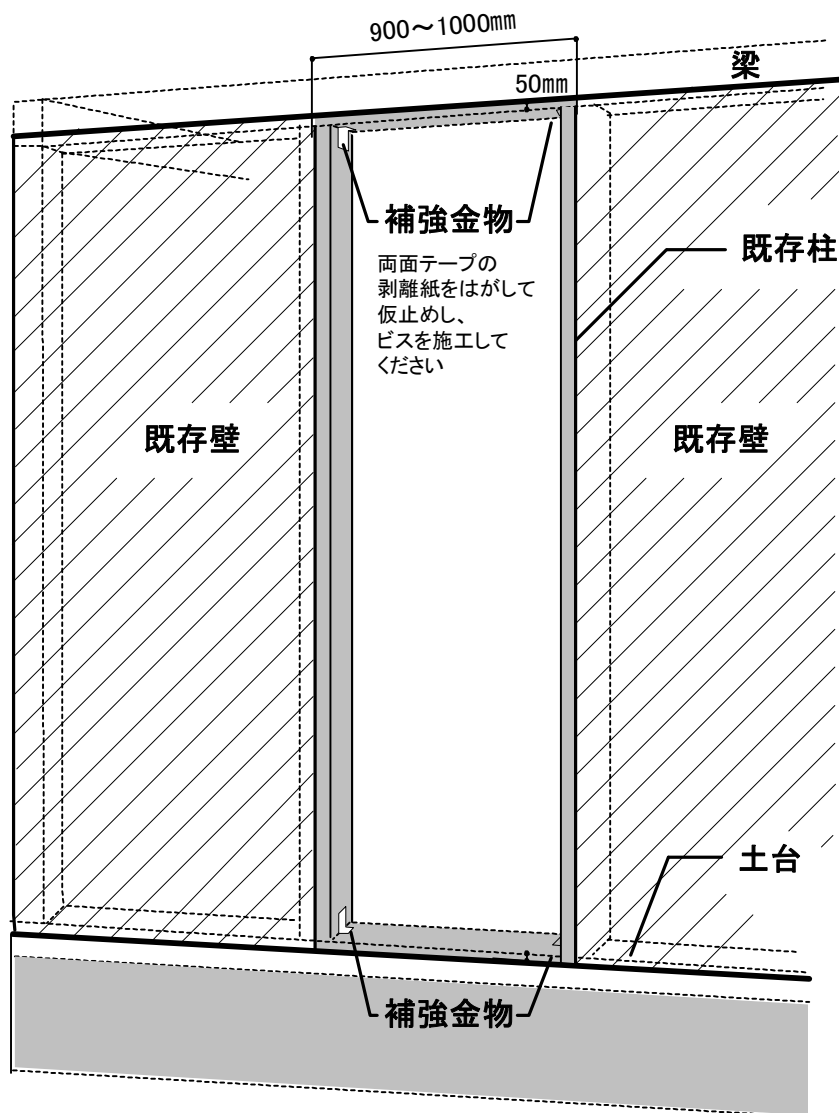
### ⑨-3) 耐震ボードの施工・仕上げは施工編 P. 17 の内容を必ずご覧ください。

## ⑩大壁仕様J

所定の補強効果(壁強さ倍率)にて設計・施工する際には、これら概要図の中の設計寸法範囲を必ず守っていただく必要がありますのでご注意ください。

※この仕様では、(参考商品名)「外壁大壁仕様」が必要となりますのでご注意ください。

### ⑩-1) 施工準備、軸組材の確認、柱頭・柱脚の補強金物取付



施工編

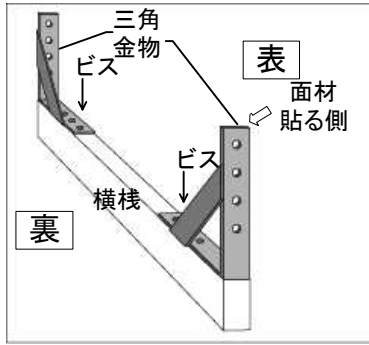
#### 【施工準備・軸組材の確認】

施工編 P.7 の内容を必ずご覧ください。

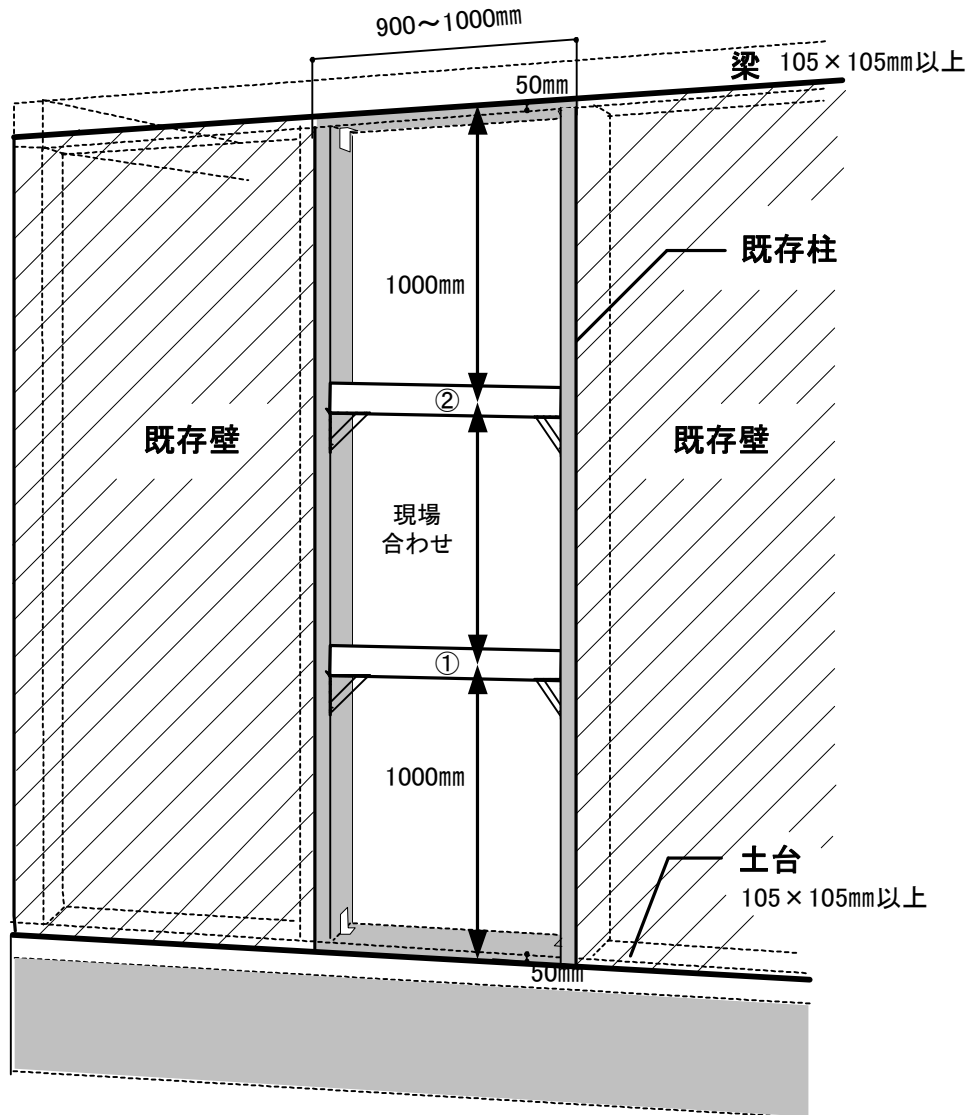
#### 【柱頭・柱脚の補強金物取り付け】

施工編 P.7 の内容を必ずご覧ください。

## ⑩-2) 横棧の施工



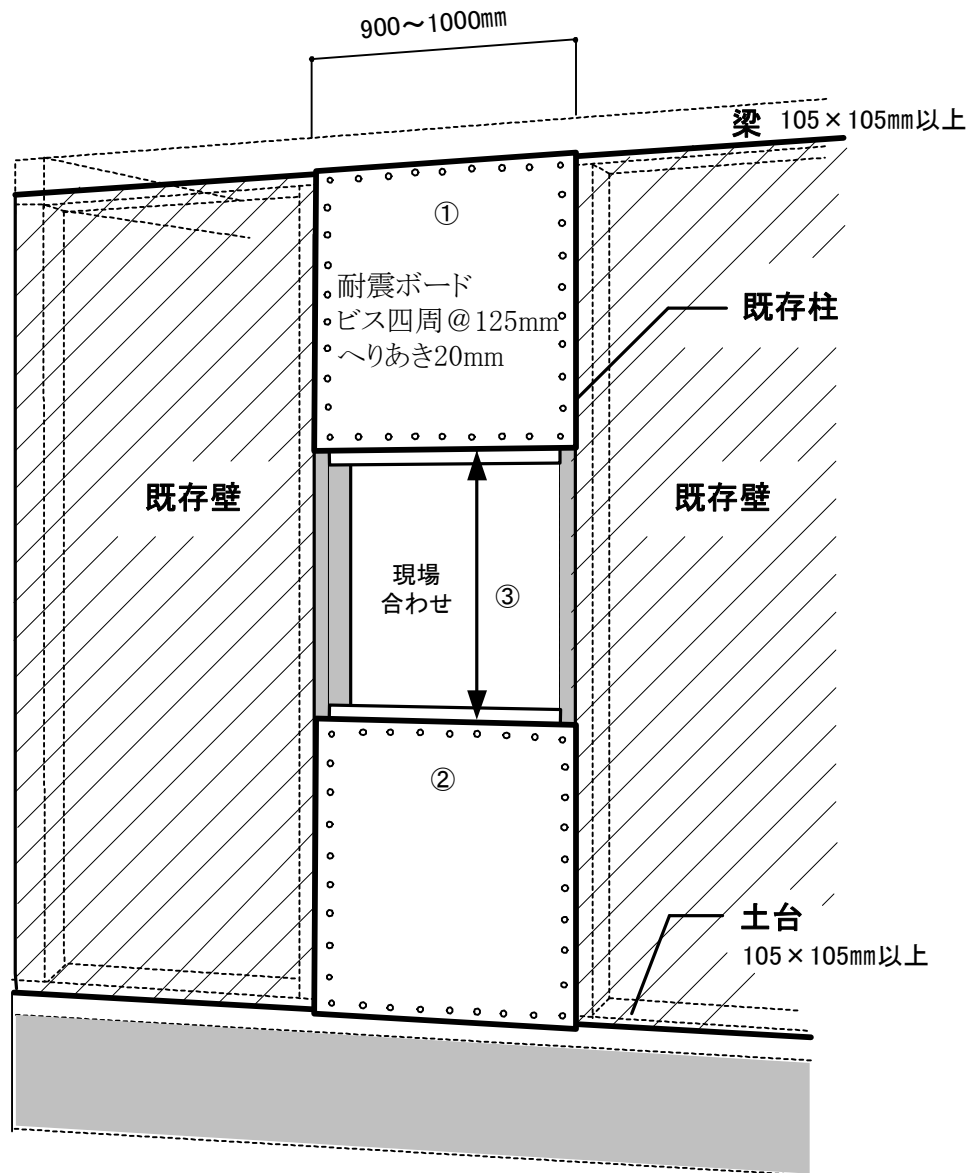
・横棧4本に、予め耐震補強用専用ビスで横棧受け金物を2個ずつ設置して置きます



### 【横棧の施工準備】

- ・横棧は面材の上下部を留めつける受材で、壁の上下及び面材継手部①～②の2本設置する。上図を参考に、横棧を施工する位置に墨付けをします。
- ・柱間の内寸を測り、横棧の長さを決定し、切断します。
- ・壁1P中央に間柱がある場合、横棧を勝たせ、ぶつかる部分は間柱を切り欠いておきます。
- ※横棧は耐震面で重要な部材なので、切り欠いたり、途中で切断し継ぎ足すことは禁止。
- 既存が土塗の個所に施工する場合も、土塗を欠いて施工します。
- ※既存の筋かいとぶつかる場合は、横棧を優先するために、筋かいを欠損することになるため、両者の併用（壁倍率の足し算）は出来ません。
- ※横棧は両端を柱等に緊結するため、中央に既存間柱があっても、横棧を間柱に釘留めする必要はありません。

### ⑩-3) 耐震ボードの施工・仕上げ



#### 【耐震ボードの施工】

- ・既存壁の開口した幅を測り、3枚の耐震ボードの片側を切断します。
- ・①、②を耐震補強用専用ビスでボードを留めていきます。  
ボードを留める際は、ボードに示してあるビスピッチプリントを参考に@125mm間隔以内でビス留めします。ボード四周のビスは、**ボード端からへりあき20mm以上**取って下さい。

※ボードの中通りは、仮に間柱があってもビスは打ちません。

※ボードを留めるビスは、性能を発揮するのに非常に重要な部材です。必ず同梱されているビスを使用して下さい。

※ビスの頭とボードが揃うように施工して下さい。ボードのビスは、頭がめりこみ過ぎないように注意して下さい。(2mm程度まで)

#### 【仕上げ】

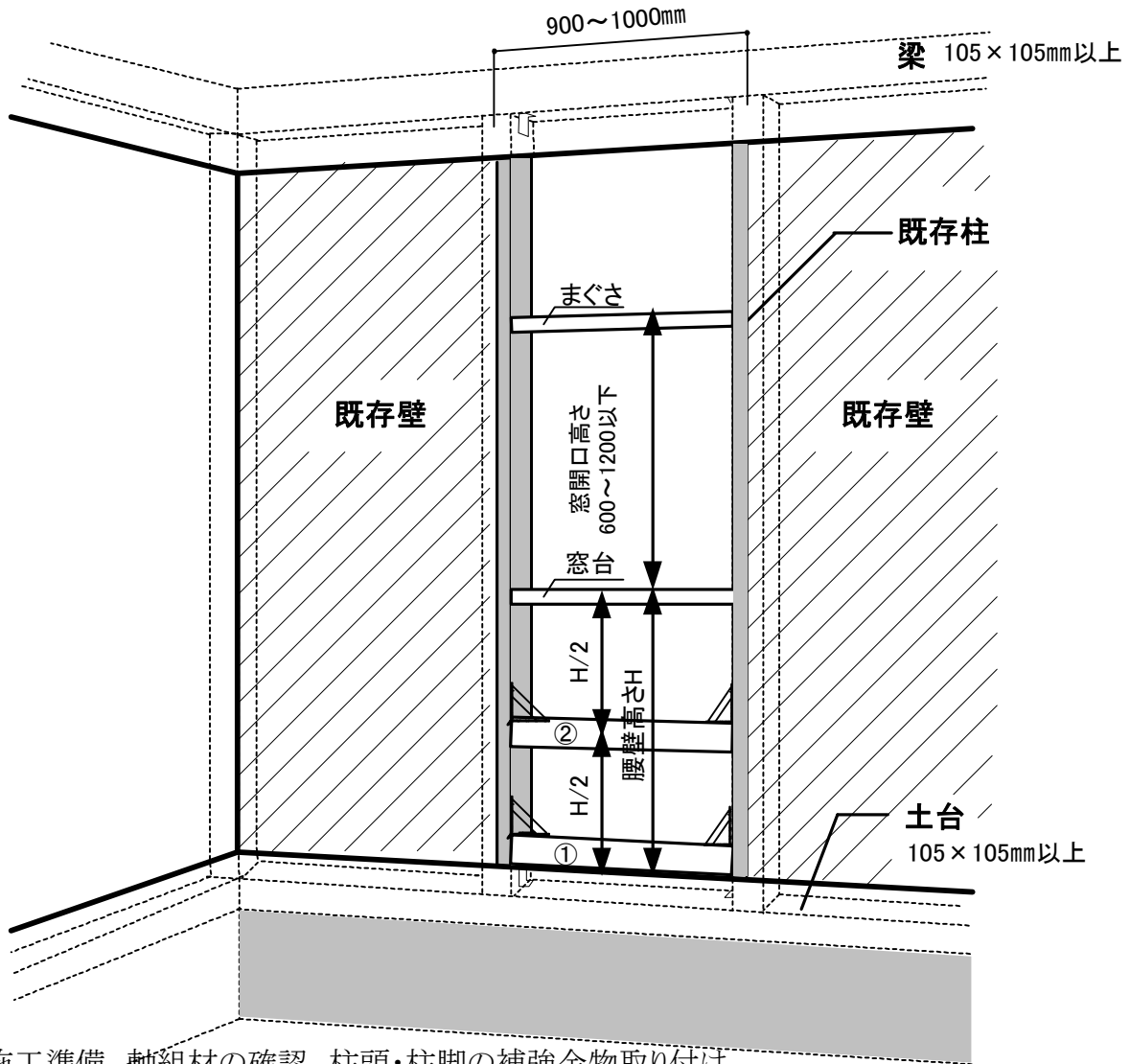
- ・再度ビスがボードに必要以上にめり込んでいないか確認をします。
- ・内装のクロス仕上げは各メーカーの施工工法に準じます。
- ※かべつよし（MDF）は、水分を吸収する性質がある為、ボードに直接クロスを貼ると、目すきやヨレなどが発生する場合があります。ベニヤなどを貼って頂いた上で、クロスなどを施工して下さい。
- ※かべつよし（MDF）湿式で施工する建築建材（じゅらく、シックイ、塗り壁等）は乾燥する時には必ず収縮する為、ひび割れなどが発生しやすくなります。必ずベニヤなどの下地材を用いて施工して下さい。

## 5. 窓開口壁の施工方法

各施工仕様の施工手順は下記の通りです。詳細は次ページ以降をご覧ください。

幅1Pの窓開口壁（腰窓） <b>W①直張り大壁大壁仕様</b>	幅1Pの窓開口壁（腰窓） <b>W②真壁仕様</b>
W①-1 施工準備、 軸組材の確認、 柱頭・柱脚の 補強金物取り付け ↓ W①-2 横棧の施工 ↓ W①-3 耐震パネルの施工	W②-1 施工準備、 軸組材の確認、 柱頭・柱脚の 補強金物取り付け ↓ W②-2 横棧・縦棧の施工 ↓ W②-3 耐震パネルの施工

幅2Pの窓開口壁（腰窓） <b>W③直張り大壁大壁仕様</b>	幅2Pの窓開口壁（腰窓） <b>W④真壁仕様</b>
W③-1 施工準備、 軸組材の確認、 <u>添え柱の施工</u> 、 柱頭・柱脚の 補強金物取り付け ↓ W③-2 横棧の施工 ↓ W③-3 耐震パネルの施工	W④-1 施工準備、 軸組材の確認、 <u>添え柱の施工</u> 、 柱頭・柱脚の 補強金物取り付け ↓ W④-2 横棧・縦棧の施工 ↓ W④-3 耐震パネルの施工



## W①-1) 施工準備、軸組材の確認、柱頭・柱脚の補強金物取り付け

## 【施工準備・軸受材の確認】

**P.7の内容を必ずご覧ください。柱の断面寸法が105×105mm以上の場合はP.4をご覧ください。**

- ・窓台、まぐさの厚みは45mm以上とします。
- ・窓開口は幅1P、内法高さ600～1200mmとします。

## 【施工準備・軸受材の確認】

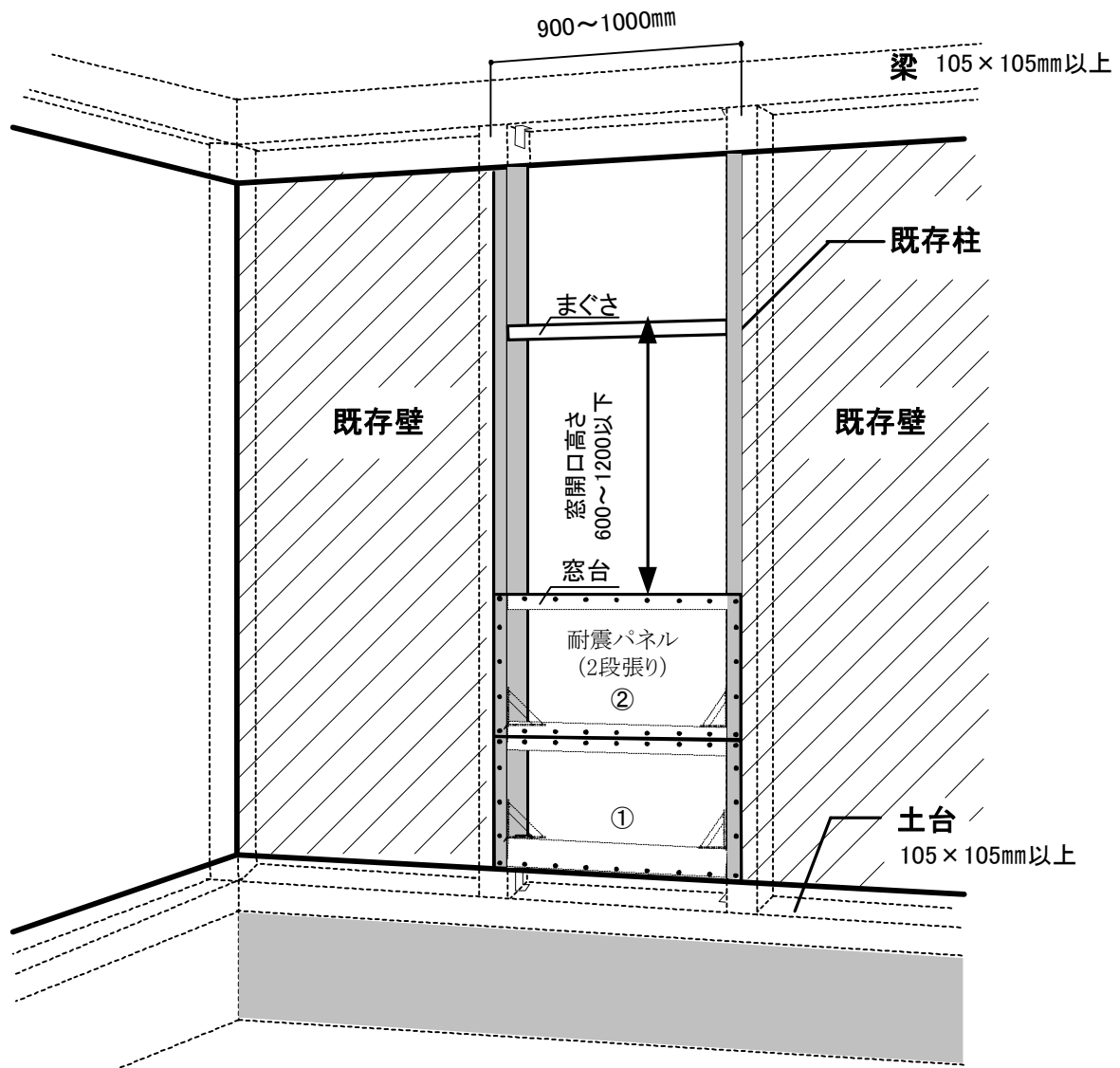
**P.7の内容を必ずご覧ください。**

## W①-2) 横棧の施工

## 【横棧の施工】

- ・横棧は面材の上下部を留め付ける受材で、**腰壁の下部①と中断②に2本配置**します。  
上図を参考に、横棧を施工する位置に墨付けをします。
  - ・柱間の内寸を測り、横棧の長さを切断します。
  - ・下部の横棧は、土台上面から150mm以内の位置に横棧の下端を取り付けます。
  - ・腰壁の中段の横棧は、床面から $H/2$ の高さ(H:腰壁高さ…床面から窓台上端までの高さとし、1000mm以上とする)の位置に横棧の中心を合わせ取り付けます。
  - ・壁1P中央に間柱がある場合は、横棧を勝たせ、ぶつかる場合は間柱を切り欠きます。
- ※横棧は両端を柱等に緊結するため、中央に既存間柱があっても、横棧を間柱に釘留めする必要はありません。**

【横棧への受け金物取り付け】 **P.5の内容を必ずご覧下さい。**



**【耐震ボードの施工】**

- ・耐震ボード長さ、幅方向を切断し、腰壁高さの半分の長さのパネルを2枚作ります。
- ・カットした耐震パネル2枚の天地を確認し、下から順に2枚縦張りします。
- ・耐震ボードは、縦棧・横棧に耐震補強専用ビスにて四周125mm間隔以下で留め付けます。(パネルには目安となるよう125mm間隔を大ドットで印刷しています)
- ・パネル四周の耐震補強専用ビスは、端からへりあき20mm以上の位置に留め付けます。(窓台・まぐさ部も)

**※パネルの中通りは、仮に間柱があってもビスは打ちません。(ビスが不足します)**

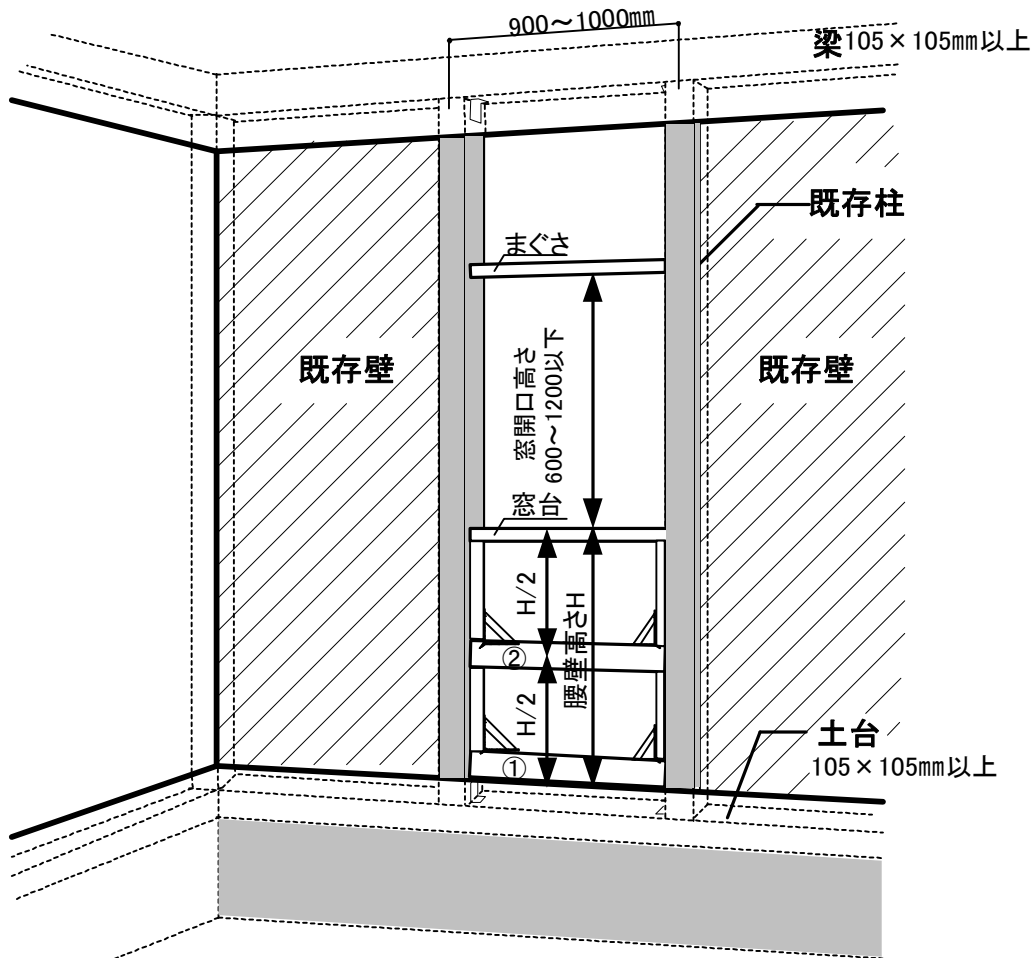
**※パネルのビスは、頭がめりこみ過ぎないように注意して施工してください。(2mm程度まで)**

**【仕上げ】**

- ・再度ビスがボードに必要以上にめり込んでいないか確認をします。
- ・内装のクロス仕上げは各メーカーの施工工法に準じます。  
モイスかべつよしについては、直張り仕上げが可能です。

**※かべつよし(MDF)は、水分を吸収する性質がある為、ボードに直接クロスを貼ると、目すきやヨレなどが発生する場合があります。ベニヤなどを貼って頂いた上で、クロスなどを施工してください。**

**※かべつよし(MDF)湿式で施工する建築建材(じゅらく、シックイ、塗り壁等)は乾燥する時には必ず収縮する為、ひび割れなどが発生しやすくなります。必ずベニヤなどの下地材を用いて施工してください。**



## W②-1) 施工準備、軸組材の確認、柱頭・柱脚の補強金物取り付け

## 【施工準備・軸受材の確認】

**P.15の内容を必ずご覧下さい。**

- ・柱の断面寸法は $90 \times 90\text{mm}$ 以上とします。窓台の厚みは $45\text{mm}$ 以上とします。
- ・窓開口は幅1P、内法高さ $600 \sim 1200\text{mm}$ とします。

## 【施工準備・軸受材の確認】

**P.15の内容を必ずご覧下さい。**

## W②-2) 横棧の施工

## 【横棧・縦棧の施工】

- ・横棧は面材の上下部を留め付ける受材で、腰壁の中段と下部に2本配置します。上図を参考に、横棧を施工する位置に墨付けをします。
- ・柱間の内寸を測り、横棧の長さを切断します。
- ・下部の横棧は、土台上面から $150\text{mm}$ 以内の位置に横棧の下端を取り付けます。
- ・腰壁の中段の横棧は、床面から $H/2$ の高さ( $H$ :腰壁高さ…床面から窓台上端までの高さとし、 $1000\text{mm}$ 以上とする)の位置に横棧の中心を合わせ取り付けます。
- ・壁1P中央に間柱がある場合は、横棧を勝たせ、ぶつかる場合は間柱を切り欠きます。

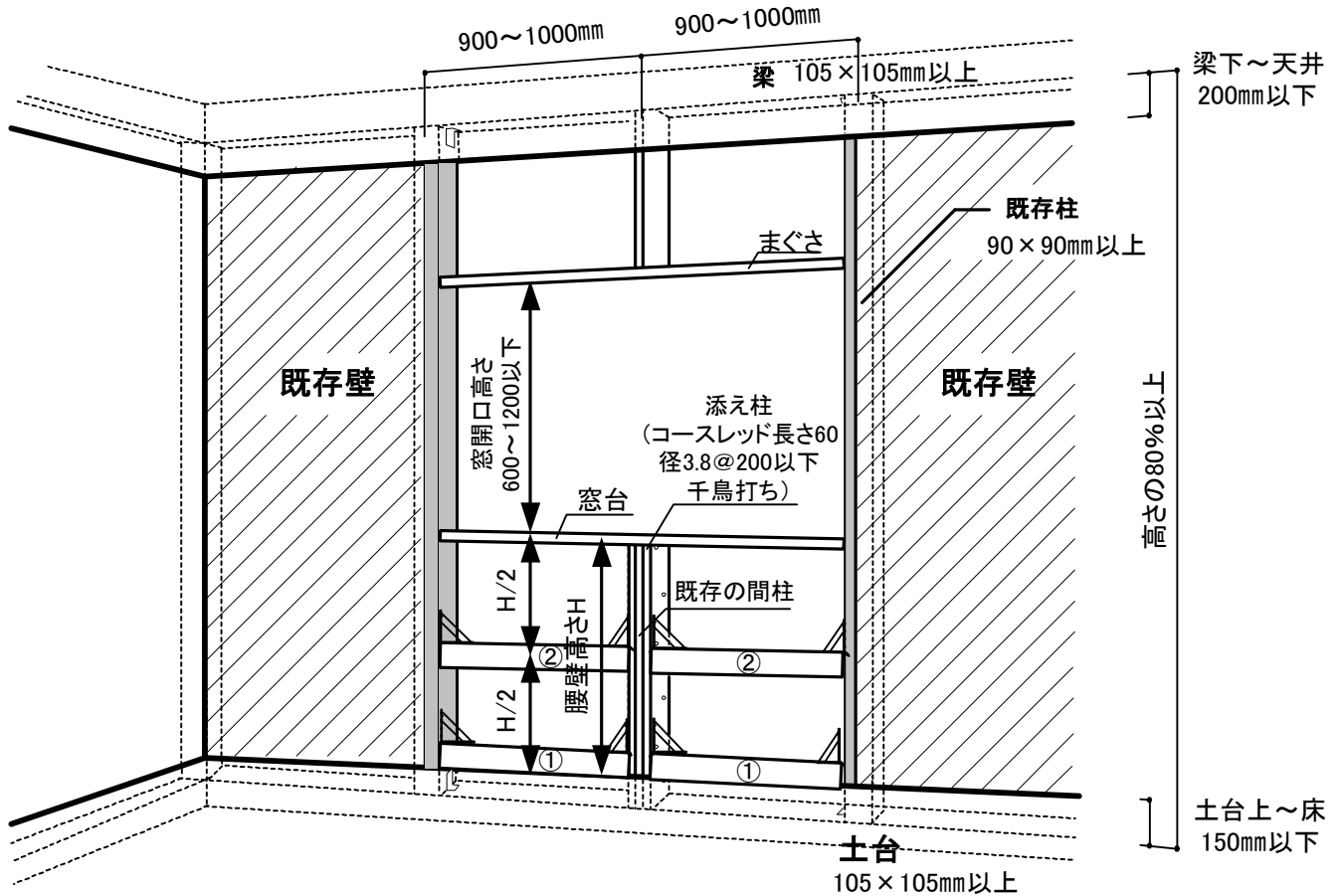
**※横棧は両端を柱等に緊結するため、中央に既存間柱があっても、横棧を間柱に釘留めする必要はありません。**

- ・横棧間の内寸を測り、縦棧の長さを切断します。
- ・縦棧耐震補強専用ビス $\text{KK}100 @ 250$ 以内で留め付ける。

【横棧への受け金物取り付け】 **P.16の内容を必ずご覧ください。**

## W②-3) 耐震ボードの施工 P.26の内容を必ずご覧ください。

2mを超える場合  
開口低減係数 $K_o=0.2$   
ただし、3m超は3mと見なす



### W③-1) 施工準備、軸組材の確認、柱頭・柱脚の補強金物取り付け

#### 【施工準備・軸受材の確認】

##### **P.7の内容を必ずご覧下さい。**

- ・柱の断面寸法は $90 \times 90\text{mm}$ 以上とします。窓台の厚みは $45\text{mm}$ 以上とします。
- ・窓開口は幅 $1.5P \sim 2P$  (**2mを超える場合は開口低減係数 $K_o=0.2$** )、内法高さ $600 \sim 1200\text{mm}$ とします。

#### 【添え柱の施工】

- ・面材を継ぐ部分(2Pの中間)には、既存の間柱を挟んで添え柱を両側から取り付けます。既存の間柱と一体となった断面寸法は、幅 $90 \times$ 奥行 $90\text{mm}$ 以上とします。
  - ・**既存間柱の断面寸法は幅 $30 \times 90\text{mm}$ 以上**とし、側面部分に「添え柱」を施工します。
  - ・**添え柱は $30 \times 90$ 以上の木材(現場調達)**を用い、長さ $60\text{mm}$ 、径 $3.8\text{mm}$ 以上のねじ(コーススレッドねじ: **現場調達**)にて $@200\text{mm}$ 以下で既存の間柱に留め付けます。
  - ・添え柱は、横架材(土台・胴差)と窓台の間にすきまなく施工します。
- ※添え柱、コーススレッドねじは、現場調達願います。(製品には同梱されていません)

#### 【柱頭・柱脚部の補強金物取り付け】

##### **P.7の内容を必ずご覧下さい。**

- ・**柱頭、柱脚の補強金物の施工は、添え柱を施工した後に行います。**

### W③-2) 横棧の施工

#### 【横棧の施工】

- ・横棧は面材の上下部を留め付ける受材で、**下部①と中段②に2本配置**します。  
上図を参考に、横棧を施工する位置に墨付けをします。
  - ・柱間の内寸を測り、横棧の長さを切断します。
  - ・下部の横棧は、土台上面から150mm以内の位置に横棧の下端を取り付けます。
  - ・腰壁の中段の横棧は、床面からH/2の高さ(H:腰壁高さ…床面から窓台上端までの高さとし、1000mm以上とする)の位置に横棧の中心を合わせ取り付けます。
  - ・壁1P中央に間柱がある場合は、横棧を勝たせ、ぶつかる場合は間柱を切り欠きます。
- ※横棧は両端を柱等に緊結するため、中央に既存間柱があっても、横棧を間柱に釘留めする必要はありません。

【横棧への受け金物取り付け】 **P.5の内容を必ずご覧下さい。**

### W③-3) 耐震ボードの施工

#### 【耐震ボードの施工】

- ・耐震ボード長さ、幅方向を切断し、腰壁高さの半分の長さのパネルを2枚作ります。
- ・カットした耐震パネル2枚の天地を確認し、下から順に2枚縦張りします。
- ・耐震ボードは、縦棧・横棧に耐震補強専用ビスにて四周125mm間隔以下で留め付けます。(パネルには目安となるよう125mm間隔を大ドットで印刷しています)
- ・パネル四周の耐震補強専用ビスは、端からへりあき20mm以上の位置に留め付けます。(窓台・まぐさ部も)

※パネルの中通りは、仮に間柱があってもビスは打ちません。(ビスが不足します)

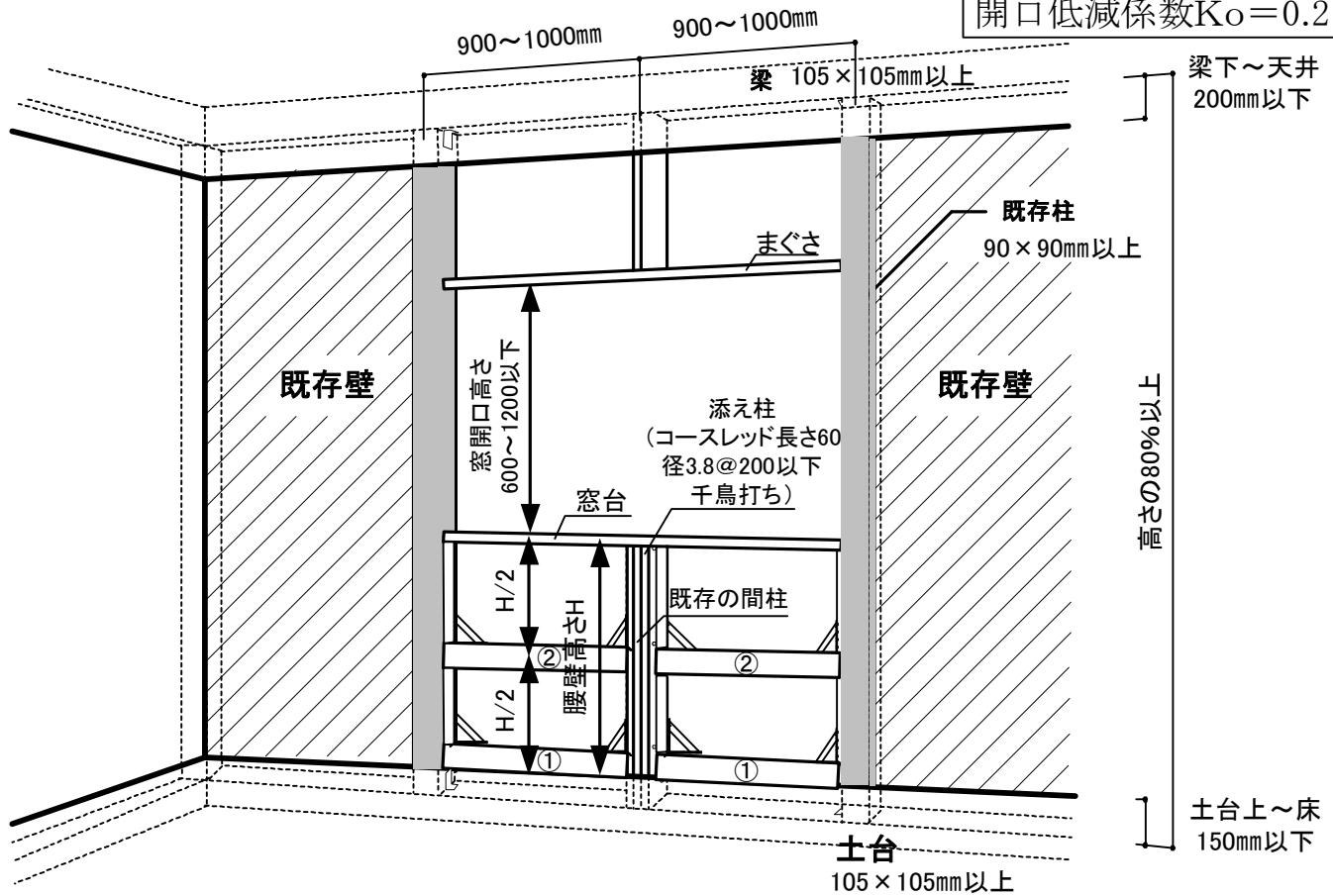
※パネルのビスは、頭がめりこみ過ぎないように注意して施工してください。(2mm程度まで)

#### 【仕上げ】

- ・再度ビスがボードに必要以上にめり込んでいないか確認をします。
- ・内装のクロス仕上げは各メーカーの施工工法に準じます。  
モイスかべつよしについては、直張り仕上げが可能です。

※かべつよし(MDF)は、水分を吸収する性質がある為、ボードに直接クロスを貼ると、目すきやヨレなどが発生する場合があります。ベニヤなどを貼って頂いた上で、クロスなどを施工してください。

※かべつよし(MDF)湿式で施工する建築建材(じゅらく、シックイ、塗り壁等)は乾燥する時には必ず収縮する為、ひび割れなどが発生しやすくなります。必ずベニヤなどの下地材を用いて施工してください。

2mを超える場合  
開口低減係数 $K_o=0.2$ 

W④-1) 施工準備、軸組材の確認、柱頭・柱脚の補強金物取り付け

施工編 P. 28の内容を必ずご覧下さい。

W④-2) 横棧・縦棧の施工

## 【横棧・縦棧の施工】

- ・横棧は面材の上下部を留め付ける受材で、**下部①と中段②に2本配置**します。  
上図を参考に、横棧を施工する位置に墨付けをします。
- ・柱間の内寸を測り、横棧の長さを切断します。
- ・下部の横棧は、土台上面から150mm以内の位置に横棧の下端を取り付けます。
- ・腰壁の中段の横棧は、床面から $H/2$ の高さ(H:腰壁高さ…床面から窓台上端までの高さとし、1000mm以上とする)の位置に横棧の中心を合わせ取り付けます。
- ・壁1P中央に間柱がある場合は、横棧を勝たせ、ぶつかる場合は間柱を切り欠きます。
- ※横棧は両端を柱等に緊結するため、中央に既存間柱があっても、横棧を間柱に釘留めする必要はありません。
- ・横棧間の内寸を測り、縦棧の長さを切断します。
- ・縦棧耐震補強専用ビスKK105@250以内で留め付ける。

【横棧への受け金物取り付け】 P.5の内容を必ずご覧下さい。

W④-3) 耐震ボードの施工

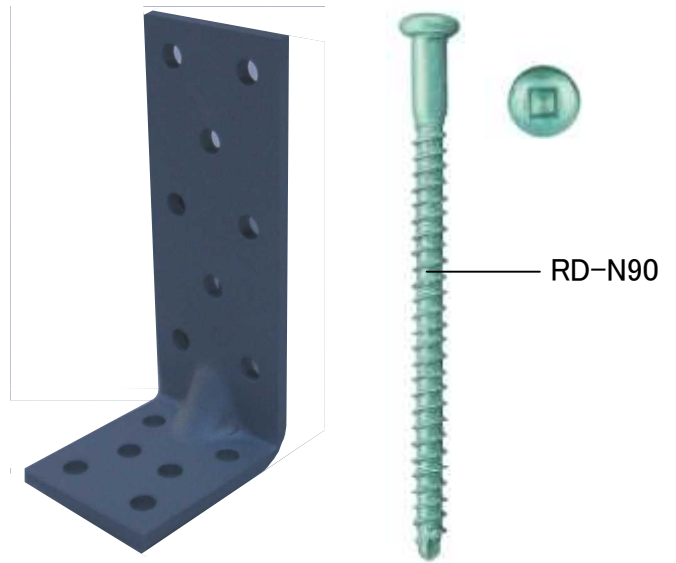
施工編 P. 29の内容を必ずご覧下さい。

## 6. 柱頭・柱脚金物の取り付け方法（14.2kN用引き寄せ金物）

■専用コーナー金物 4セット

【梱包内容】

- ・ コーナー金物本体(オリジナルコーナー金物) 4個
- ・ ビスRD-N90(シルバーグリーン) 60本  
φ6.0mm×90mm (予備4本込)

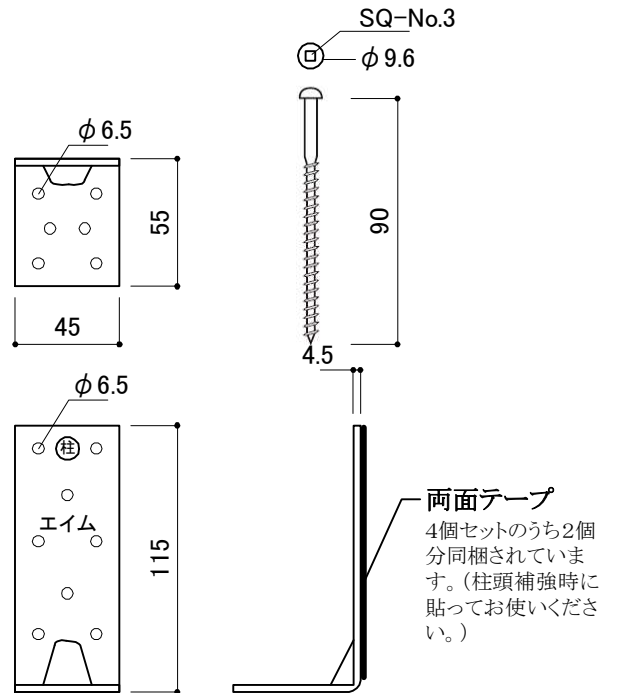


施工編

■取付図



■仕様図



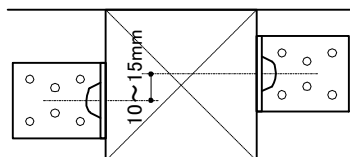
【取付手順】

1. (柱)印のある長い面を柱側にします。  
※金物の取付向きを間違えると所定の耐力が発揮されませんご注意ください。
2. 柱、横架材にビスを締付けます。  
※ビス施工には四角ビット(■3番)を使用します。

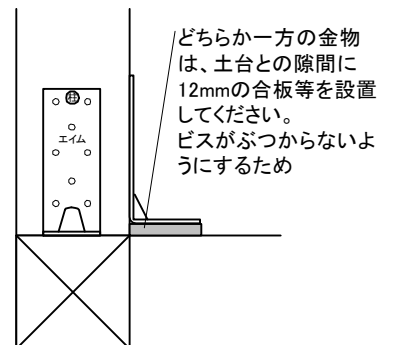
中間柱 2個 仕様の注意事項



金物の芯を10~15mmずらして、設置してください。  
ビスがぶつからないようにするため



隅柱 2個 仕様の注意事項

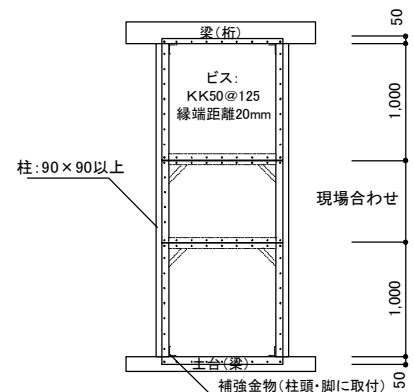


## 7. 各施工仕様と梱包内容

### □かべつよし大壁仕様 梱包内容 (⑩※参考商品名 外壁大壁用)

梱包内容	かべつよし
□耐震ボード(MDF)	3枚
□横棧	2本
□横棧受け金物	4個
□耐震補強専用ビス KK50	140本
□専用コーナー金物	4セット (柱頭分両面テープ 2枚40mm×100mm)
□取り扱い説明書	1冊

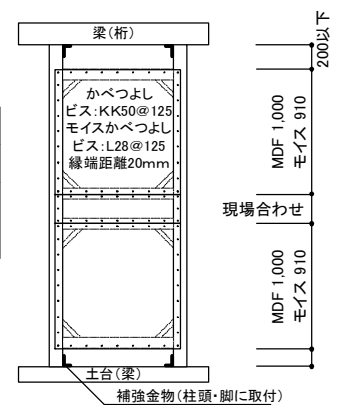
入隅キット	
□縦棧	3本
□縦棧用ビス L105	15本



### □モイス・かべつよし大壁用 梱包内容 (MDF①~⑤、モイス⑪~⑮※参考商品名 内壁大壁用)

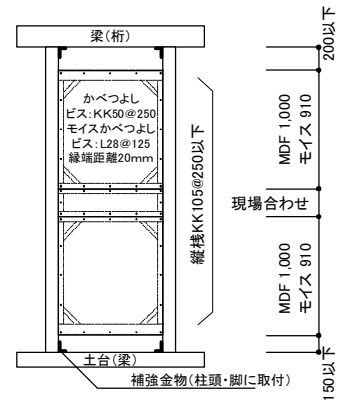
梱包内容	かべつよし	モイスかべつよし
□耐震ボード(MDF)	3枚	
□耐震ボード(モイス)		3枚
□横棧	4本	
□横棧受け金物	8個	
□耐震補強専用ビス KK50	170本	70本
□耐震補強専用ビス L28		100本
□専用コーナー金物	4セット (柱頭分両面テープ2枚40mm×100mm)	
□取り扱い説明書	1冊	

入隅キット	
□縦棧	3本
□縦棧用ビス L105	15本



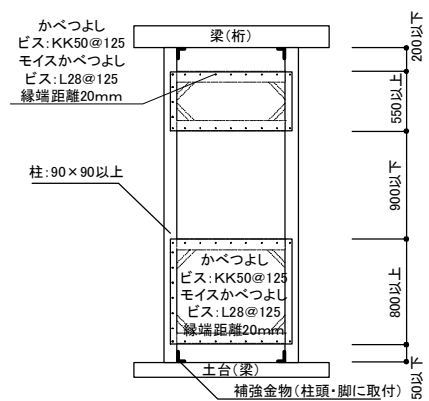
### □モイス・かべつよし真壁用 梱包内容 (MDF⑦~⑨、モイス⑰~⑲※参考商品名 内壁真壁用)

梱包内容	かべつよし	モイスかべつよし
□耐震ボード(MDF)	3枚	
□耐震ボード(モイス)		3枚
□横棧	4本	
□縦棧	6本	
□横棧受け金物	8個	
□縦棧用ビス L105	30本	
□耐震補強専用ビス KK50	170本	70本
□耐震補強専用ビス L28		100本
□専用コーナー金物	4セット (柱頭分両面テープ2枚40mm×100mm)	
□取り扱い説明書	1冊	

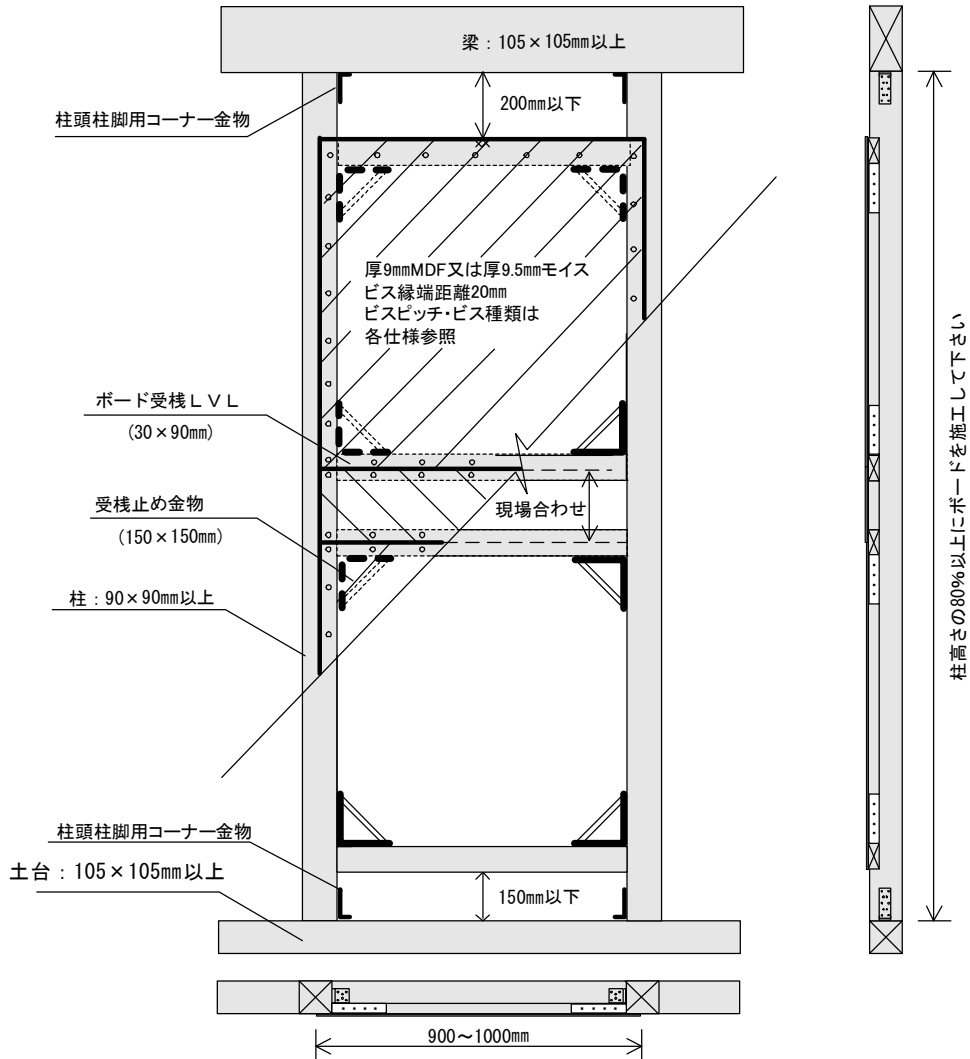


### □直張り大壁開口仕様 梱包内容 (⑥、⑯※参考商品名 まどつよし・モイスまどつよし)

梱包内容	かべつよし	モイスかべつよし
□耐震ボード(MDF)	2枚	
□耐震ボード(モイス)		2枚
□横棧	4本	
□横棧受け金物	8個	
□耐震補強専用ビス KK50	140本	70本
□耐震補強専用ビス L28		70本
□専用コーナー金物	4セット (柱頭分両面テープ2枚40mm×100mm)	
□取り扱い説明書	1冊	



# かべつよし・モイスかべつよし全体図(内壁大壁)



モイスかべつよしはエイム㈱と  
三菱商事建材㈱の共同開発部材です

## ▽ 本製品に関するご注意

本製品を安全に使用していただくために設計・施工・使用にあたっては下記の点を守ってください。

### ①製品の検討・設計にあたって

本説明書の掲載の製品には、使用用途・場所などを限定するものがあります。  
製品の検討時には、必ず用途をご確認の上、誤採用がないように注意してください。

### ②施工にあたって

「施工編」の内容をよく読み、正しく施工してください。専門施工を必要とする製品は必ず専門の工事店にご依頼ください。

### ③使用にあたって

取り扱いに注意を要するものには、「取扱説明書」がついています。ご使用前によく読み、使用上の注意をお守りください。  
本説明書内の写真は実際の材質感とは多少異なる場合があります。  
本説明書に収録したものは全て当社に著作権の存するものとしますので、無断の複製はかたくお断りします

※本説明書は2007年5月現在のものです

仕様他、本説明書の記載内容は、予告なく改定する場合があります。  
最新版は下記ホームページアドレスにてご確認ください。

本製品に関するお問い合わせは  
エイム株式会社 顧客管理課

取扱店

〒332-0002  
埼玉県川口市弥平2-20-3 エイムWingビル  
TEL:048-224-8160 FAX:048-224-8180  
<http://www.aimkk.com/>